

令和3年(2021年)
全国災害時気象概況

令和4年8月

気象庁

—— 目 次 ——

1 令和3年(2021年)の気象災害	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	20
資料1-2-2 令和3年(2021年)に発生した主な竜巻等の突風.....	33
資料1-2-3 令和3年(2021年)激甚災害指定状況一覧表.....	34
2 令和3年(2021年) 台風の概要	36
2-1 令和3年(2021年)に発生した台風.....	36
資料2-1-1 台風発生数一覧表.....	37
資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表	38
資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表	39
資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	40
資料2-1-5 令和3年(2021年)に発生した台風の一覧表	41
2-2 令和3年(2021年)に日本に影響した主な台風.....	42
資料2-2-1 令和3年(2021年)に日本に影響した台風の概要表	45
資料2-2-2 令和3年(2021年)に発生した台風の経路図	46
3 令和3年(2021年)の天気概況	51

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁大気海洋部において取りまとめたものである。

(キキクル(危険度分布)の図に関する補足)

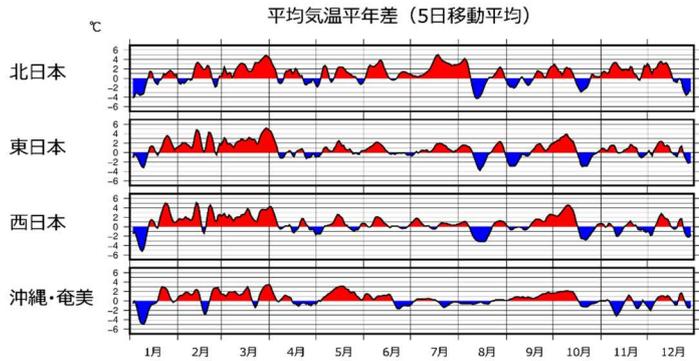
令和4年6月30日よりキキクル(危険度分布)の運用を変更しましたが、本資料は現象が発生した時点における状況を取りまとめたものであり、変更前の運用による図を掲載しております。

1 令和3年(2021年)の気象災害

1-1 気象の特徴

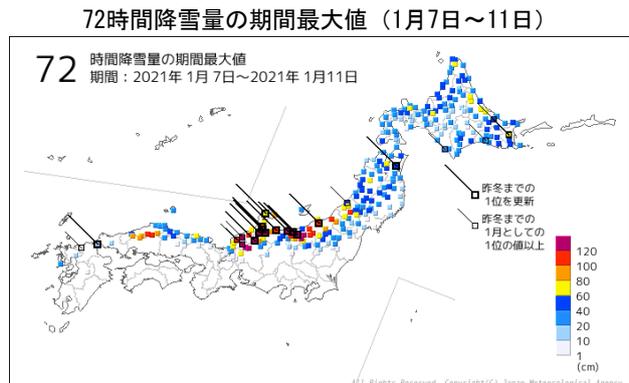
○ 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的に高く、特に北・西日本ではかなり高かった。

3月、6月～7月、11月と北日本中心に気温がかなり高くなった。特に3月は、寒気の南下が顕著に弱かったため、全国的に気温はかなり高くなり、月平均気温は、北日本(平年差+2.6℃)、東日本(平年差+2.9℃)、西日本(平年差+2.6℃)で1946年の統計開始以来最も高かった。7月中旬から8月上旬は、太平洋高気圧が北日本付近に張り出したため、北海道で猛暑日が続くなど北日本で顕著な高温となった。1月上旬、8月中旬、9月上旬、10月下旬、12月下旬など一時的に気温がかなり低くなる地域があったが、長くは続かなかった。年間を通して気温の高い状態になることが多く、年平均気温(2021年1月～12月)は全国的に高く、特に北日本と西日本ではかなり高かった。



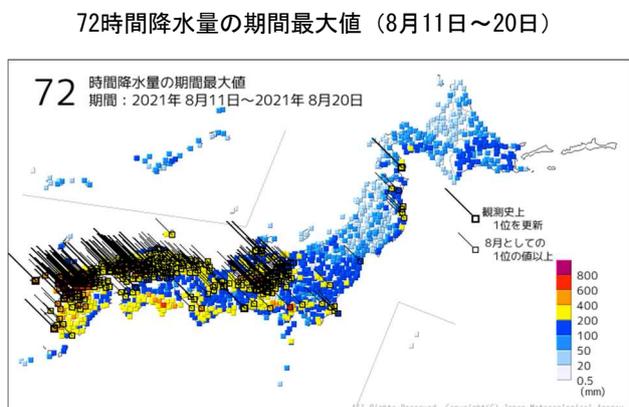
○ 前年12月～1月にかけて日本海側では各地で大雪となった。

前年12月から1月中旬にかけて、強い寒気が南下したため、日本海側ではしばしば大雪となった。1月7日から11日にかけては、72時間降雪量が新潟県高田で187センチに達したのをはじめ、日本海側の19地点で記録を更新するなど、大雪が続き、多数の車両の立ち往生など大規模な交通障害が発生した。冬の降雪量は、西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側が多かった。



○ 8月中旬は東・西日本で記録的な大雨となった。

8月中旬は、前線が本州付近に停滞したため、東・西日本では各地で長期間にわたって大雨となり、68地点で72時間降水量の多い記録を更新した。月降水量は西日本日本海側で平年比371%、西日本太平洋側で平年比297%といずれも8月として最も多い記録を更新した(統計開始は1946年)。



1-2 主な気象災害

ここでは、令和3年(2021年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種別、< >内に気圧配置等の気象状況を記す。主な気象災害の一覧を表1.1に示す。

なお、被害の具体的な数値は、以下の情報を参考に記載した。

- ・内閣府、総務省消防庁、国土交通省による被害状況のとりまとめ資料
- ・国や都道府県の防災機関等から被害状況を入手し、気象庁でとりまとめた資料
- ・気象庁が行った突風の被害状況等調査報告

表 1.1 主な気象災害の一覧表

災害番号	災害をもたらした現象の期日	地域	災害の種別	気象状況
(1)	(令和2年)12月30日 ～1月2日	西日本 東日本 北日本	大雪、暴風雪、 高波	冬型
(2)	1月7日～1月11日	西日本 東日本 北日本	大雪、暴風雪、 高波	低気圧、冬型
(3)	2月15日～2月18日	西日本 東日本 北日本	暴風雪、高波、 大雪、	低気圧、冬型
(4)	5月1日	静岡県	突風	大気不安定
(5)	5月7日～7月14日	全国	大雨	梅雨前線
(6)	7月16日～7月18日	九州南部、 四国地方	大雨	上空の寒気、湿った空気
(7)	7月28日～7月29日	福井県	大雨	台風第8号、 上空の寒気、湿った空気
(8)	8月6日～8月26日	全国	大雨、暴風、 高波	台風第9号、台風第10号、 台風第12号、停滞前線
(9)	9月11日～9月18日	沖縄・奄美 西日本 東日本	大雨、暴風、 高波、突風	台風第14号
(10)	10月4日	北海道	突風	大気不安定
(11)	12月25日～12月28日	西日本 東日本 北日本	大雪	冬型

(1) 令和2年12月30日～令和3年1月2日:西日本～北日本(大雪、暴風雪、高波) <冬型>

令和2年12月30日から令和3年1月1日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、上空には強い寒気が流れ込み続けた。その後、2日にかけても冬型の気圧配置が継続した。これらの影響で、北日本から西日本の日本海側を中心に断続的に雪が降り、広い範囲で大雪となった。

この大雪により、死者6名の人的被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。(令和3年1月4日の国土交通省とりまとめ、令和3年1月6日の消防庁とりまとめによる)

[日降雪量 50 センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

12月30日

鳥取県大山町大山(ダイセン)	71	長野県小谷村小谷(オタ)	51
岡山県真庭市上長田(カミナガタ)	50		

1月1日

山形県大蔵村肘折(ヒゾリ)	60	福島県只見町只見(タダミ)	54
---------------	----	---------------	----

1月2日

山形県大蔵村肘折(ヒゾリ)	52		
---------------	----	--	--

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

12月30日

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	24.5	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	23.7
愛知県常滑市セントレア(セントレア)	21.8	京都府京丹後市間人(タイザ)	21.6
東京都新島村新島(ニイジマ)	20.9	新潟県佐渡市弾崎(ハジキサキ)	20.9
沖縄県与那国町所野(トコロ)	20.8	岡山県北区岡山(オカヤマ)	20.1

12月31日

山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.8		
----------------	------	--	--

1月1日

秋田県八峰町八森(ハチモリ)	20.3	山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.1
----------------	------	----------------	------

(2) 1月7日～1月11日:西日本～北日本(大雪、暴風雪、高波) <低気圧、冬型>

1月7日から8日朝にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本海から北日本を通して千島近海へ進んだ。その後、日本の上空に強い寒気が流れ込んで11日にかけて強い冬型の気圧配置が続いた。これらの影響で、北日本から西日本にかけて広範囲で大雪や暴風雪となった。

7日から11日にかけて、北日本から西日本の日本海側を中心に断続的に強い雪が降り、普段雪の少ない九州などでも積雪となったところがあった。7日から11日にかけての期間降雪量は、新潟県高田で213センチ、岐阜県白川で192センチ、福井県大野で158センチ、長崎県長崎で21センチとなった。北陸地方を中心に7日から9日にかけて発達した雪雲が流れ込み続けたため、3時間に20センチを超える顕著な降雪量を観測し、新潟県高田では9日に24時間降雪量103センチを観測し、観測史上1位(アメダス観測値による統計)の記録を更新した。

また、7日から8日にかけて北日本と東日本の日本海側を中心に広い範囲で非常に強い風が吹き、秋田県八森では7日に最大瞬間風速42.4メートル、最大風速28.1メートルを観測し、ともに観測史上1位の記録を更新した。

これらの影響で、福井県や新潟県で多数の車両の立ち往生が発生するなど、北日本から西日本にかけて道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、秋田県や新潟県の広い範囲

で停電が発生した。また、除雪作業中の事故などにより死者 35 名の人的被害が発生した。(令和 3 年 2 月 22 日の内閣府とりまとめによる)

[日降雪量 50 センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

1 月 8 日

新潟県上越市安塚(ヤヅカ)	112	富山県朝日町朝日(アサヒ)	69
福井県大野市大野(オオノ)	63	北海道滝上町滝上(タキノエ)	59
岐阜県白川村白川(シラカワ)	50		

1 月 9 日

富山県砺波市砺波(トナミ)	62	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカタニ)	61
新潟県上越市高田(タカタ)	55	福井県福井市福井(フクイ)	54

1 月 10 日

新潟県妙高市関山(セキヤマ)	50		
----------------	----	--	--

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

1 月 7 日

山形県酒田市飛島(トビシマ)	31.9	新潟県佐渡市相川(アイカワ)	28.6
秋田県八峰町八森(ハチモリ)	28.1	青森県深浦町深浦(フカウラ)	23.7
石川県羽咋市羽咋(ハクイ)	23.1	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	22.5
北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	21.3	京都府京丹後市間人(タイザ)	21.1
島根県出雲市斐川(ヒカワ)	20.9	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	20.7
鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	20.4		

1 月 8 日

北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	24.6	山形県酒田市飛島(トビシマ)	21.2
北海道根室市納沙布(ノサップ)	20.8		

1 月 9 日

北海道羽幌町焼尻(ヤギシリ)	21.8		
----------------	------	--	--

(3)2 月 15 日～2 月 18 日:西日本～北日本(暴風雪、高波、大雪)＜低気圧、冬型＞

発達した低気圧や冬型の気圧配置の影響で、2 月 15 日から 18 日にかけて北陸地方や北日本を中心に暴風雪や大雪となった。

この暴風雪や大雪により人的被害が発生したほか、住家被害が発生したほか、北陸地方や東北地方を中心に停電が発生した。(気象庁の調べによる)

[日降雪量 50 センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

2 月 16 日

福島県只見町只見(タダミ)	56	新潟県魚沼市守門(スモン)	53
---------------	----	---------------	----

2 月 17 日

山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	69	新潟県糸魚川市能生(ノウ)	67
岐阜県白川村白川(シラカワ)	64	福島県只見町只見(タダミ)	56
北海道美深町美深(ビフカ)	52	富山県朝日町朝日(アサヒ)	52
石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ)	52	福井県大野市九頭竜(クスリョウ)	52

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

2月15日

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	24.0	山形県酒田市飛島(トビシマ)	21.6
新潟県佐渡市相川(アイカワ)	21.5		

2月16日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	31.3	山形県酒田市飛島(トビシマ)	30.1
北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	27.6	北海道室蘭市室蘭(ムロラン)	26.2
北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	25.9	北海道根室市納沙布(ノサップ)	24.3
新潟県佐渡市両津(リョウツ)	24.3	北海道増毛町増毛(マシケ)	24.1
北海道釧路市釧路(クシロ)	23.9	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	22.8
青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	22.7	北海道石狩市浜益(ハママス)	21.9

2月17日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	25.8	北海道利尻富士町本泊(モトマリ)	24.4
高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	23.0	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	20.4
鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	20.3	北海道初山別村初山別(ショサンベツ)	20.0

2月18日

鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	20.2		
--------------------	------	--	--

(4)5月1日:静岡県(突風)<大気不安定>

5月1日は、前線を伴った低気圧や上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり、西日本から北日本にかけて雷雨となった。静岡県菊川市、牧之原市では日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻と見られる突風やJEF1の強さの突風が発生し、負傷者3名の人的被害、住家半壊6棟の被害が発生した。(被害の状況は令和3年11月2日の静岡地方気象台による現地災害調査報告より)

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	25.5	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	20.2
------------------	------	--------------------	------

※静岡県では該当なし

(5)5月7日~7月14日:全国(大雨)<梅雨前線>

5月7日から7月14日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。この前線の影響により、各地で大雨となった。

7月1日から3日にかけて、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、西日本から東日本の太平洋側に停滞した。この影響で西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、東海地方や関東甲信地方では多いところで日降水量が300ミリを超えたほか、静岡県の複数の地点で72時間降水量の観測史上1位を更新する記録的な大雨となった。

7月9日から10日にかけては、梅雨前線が日本海から東日本にかけて停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が不安定となった。この影響により全国的に雨となり、九州南部の多いところで総降水量が500ミリを超える記録的な大雨となった。

これらの大雨等の影響で、熱海市で死者27名(災害関連死者を含む)の人的被害が発生したほか、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(令和3年12月3日の内閣府取りまとめ及び、令和

4年3月25日の消防庁とりまとめによる)

5月7日から5月10日

5月7日から10日は、沖縄・奄美に梅雨前線が停滞した。この影響で奄美地方の多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月7日

鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	267.5
------------------	-------

5月11日から5月15日

5月11日から15日は、九州南部から日本の南に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が本州南岸を東へ進んだ。この影響で西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、奄美地方、九州、四国地方、伊豆諸島では、多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月12日

高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	199.0	宮崎県都農町都農(ツノ)	198.0
-----------------	-------	--------------	-------

5月13日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	122.0
--------------------	-------

5月14日

鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	112.5
------------------	-------

5月15日

熊本県芦北町田浦(タウラ)	180.5	鹿児島県さつま町さつま柏原(サツマカシワバル)	178.5
宮崎県都城市都城(ミヤコジョウ)	171.0		

5月16日から5月18日

5月16日から18日は、梅雨前線は日本海へ北上し、その梅雨前線上に低気圧が発生し日本海から北日本を通過した。この影響で全国的に雨となった。九州北部地方では、多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、四国地方、東海地方、北陸地方、甲信地方、東北地方、北海道地方では、多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月16日

徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	126.0	北海道八雲町熊石(クマイシ)	109.0
----------------	-------	----------------	-------

5月17日

熊本県山都町山都(ヤマト)	245.0	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	170.0
岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	140.5	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	134.5
石川県白山市白山白峰(ハクサンシラミネ)	123.0	愛媛県久万高原町久万(クマ)	114.5
秋田県藤里町藤里(フジサト)	113.0		

5月19日から5月22日

5月19日から22日は、本州の南岸に停滞した梅雨前線上に低気圧が発生し日本海から北日本を通過した。この影響により、関東甲信地方や九州では、日降水量が多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、沖縄・奄美から東日本の広い範囲で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月20日

熊本県五木村五木(イツキ)	247.5	宮崎県椎葉村椎葉(シイハ)	227.5
鹿児島県阿久根市阿久根(アクネ)	210.0	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	195.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	193.5	福岡県八女市黒木(クロギ)	174.0
徳島県那賀町木頭(キトウ)	142.0	愛媛県西予市宇和(ウワ)	137.0
佐賀県伊万里市伊万里(イマリ)	137.0	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	135.0
山口県岩国市玖珂(クガ)	130.5	岐阜県揖斐川町揖斐川(イビガワ)	125.5
和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマタンザン)	122.0	滋賀県大津市南小松(ミナミコマツ)	112.5
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	110.5	広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	109.0
大阪府中央区大阪(オオサカ)	101.0		

5月21日

長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	200.5	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	162.0
和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマタンザン)	161.0	静岡県藤枝市高根山(タカネサン)	147.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	143.5	岐阜県下呂市萩原(ハギワラ)	139.0
神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	133.5	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	114.0
大阪府枚方市枚方(ヒラカタ)	109.0		

5月22日

鹿児島県伊仙町伊仙(イセン)	121.0		
----------------	-------	--	--

5月23日から5月26日

5月23日から26日は、南西諸島から日本の南に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が九州を通過し、その後本州南岸を東へ進んだほか、別の低気圧が北日本を通過した。この影響で全国的に雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した地点なし]

5月27日から6月2日

5月27日は、梅雨前線上の東シナ海に発生した低気圧が九州を通過し、その後本州南岸を東へ進んだ。この影響により、九州、四国地方、近畿地方、東海地方では、多いところで日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。その後、梅雨前線は5月28日から6月2日にかけて、南西諸島から日本の南にかけて停滞し、沖縄・奄美や小笠原諸島を中心に雨となったほか、気圧の谷の影響により東日本日本海側や北日本でも雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

5月27日

宮崎県えびの市えびの(エビノ)	180.0	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	171.5
熊本県球磨村一勝地(イツショウチ)	145.5	和歌山県新宮市新宮(シングウ)	134.0
奈良県十津川村葛川(クスガワ)	120.5	三重県御浜町御浜(ミハマ)	119.0
高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	116.5	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	108.0

6月3日から6月4日

6月3日から4日は、東シナ海の梅雨前線上に発生した低気圧が西日本から東日本を東へ進んだほか、別の前線を伴った低気圧が北日本を通過した。この影響により、東海地方や北海道地方では多いところで日降水量が 200 ミリを超えたほか、九州、関東甲信地方、東北地方では、多いところで日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月3日

宮崎県都農町都農(ツノ)	192.0	鹿児島県指宿市指宿(イフスキ)	177.5
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	102.0		

6月4日

北海道えりも町目黒(メグロ)	257.0	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	223.5
北海道登別市カルルス(カルルス)	201.0	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	176.5
岐阜県揖斐川町揖斐川(イビガワ)	164.5	鹿児島県鹿屋市輝北(キホク)	148.5
宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ)	145.0	岩手県花巻市豊沢(トヨサワ)	135.5
北海道千歳市支笏湖畔(シコツコハン)	131.0	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	120.0
北海道上士幌町ぬかびら源泉郷(ヌカビラケンセンキョウ)	111.5		
愛知県豊根村茶白山(チャウスヤマ)	110.0	栃木県那須町那須高原(ナスコウゲン)	103.5

6月5日から6月10日

6月5日から10日は、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞した後、前線上の低気圧が本州南岸を東へ進んだ。この影響で沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側で雨となり、沖縄・奄美では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。その後、梅雨前線は一時的に活動を弱め不明瞭となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月5日

鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	117.0	沖縄県与那国町所野(トコロ)	108.0
------------------	-------	----------------	-------

6月6日

鹿児島県奄美市名瀬(ナセ)	142.5		
---------------	-------	--	--

6月7日

沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	130.0		
---------------------	-------	--	--

6月11日から6月15日

6月11日から15日は華中付近の梅雨前線が次第に九州付近へのび、その後南下し、南西諸島から日本の南に停滞した。また、西日本から北日本の上空には寒気が流入した。この影響で、全国的に雨となり、沖縄地方や九州南部では、多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、九州北部地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月11日

長崎県五島市福江(フケ)	106.5	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	105.0
--------------	-------	---------------	-------

6月12日

宮崎県都農町都農(ツノ)	208.0	鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイタ)	204.5
--------------	-------	--------------------	-------

6月13日

鹿児島県天城町天城(アマギ)	179.5	宮崎県都農町都農(ツノ)	102.0
----------------	-------	--------------	-------

6月14日

沖縄県粟国村粟国(アグニ)	129.5		
---------------	-------	--	--

6月15日

沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ)	206.0	長崎県五島市上大津(カオオツ)	113.0
------------------	-------	-----------------	-------

6月16日から6月23日

6月16日から23日は、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞したほか、低気圧が次々と西日本から北日本を通過した。この影響により全国的に雨となり、沖縄地方、九州南部、四国地方、東海地方では、多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月16日

鹿児島県屋久島町尾之間(オアイダ)	187.5	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	102.0
-------------------	-------	----------------	-------

6月17日

沖縄県南城市糸数(トカズ)	151.5		
---------------	-------	--	--

6月19日

愛知県西尾市一色(イッシキ)	133.0	岐阜県揖斐川町揖斐川(イビガワ)	119.5
三重県南伊勢町南伊勢(ミナミセ)	102.0		

6月21日

沖縄県南大東村南大東(ミナミダイトウ)	138.5		
---------------------	-------	--	--

6月22日

沖縄県石垣市伊原間(イハルマ)	109.0		
-----------------	-------	--	--

6月23日

沖縄県竹富町西表島(イオモテジマ)	122.5		
-------------------	-------	--	--

6月24日から6月27日

6月24日から27日は、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞し、台風第5号が日本の南海上を北東へ進んだほか、気圧の谷などの影響を受けて全国的に雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した地点なし]

6月28日から6月30日

6月28日から30日は、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞したほか、西日本から北日本の上空には寒気が流入した。これらの影響で全国的に雨となり、沖縄地方では多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、奄美地方や関東地方では、日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

6月28日

鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	147.5		
------------------	-------	--	--

6月29日

沖縄県粟国村粟国(アゲニ)	268.0	群馬県前橋市前橋(マエバシ)	104.5
---------------	-------	----------------	-------

6月30日

沖縄県渡名喜村渡名喜(トナキ)	145.5		
-----------------	-------	--	--

7月1日から7月3日

日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、7月1日から3日にかけて西日本から東日本の太平洋側に停滞した。この影響で西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、東海地方や関東甲信地方では多いところで日降水量が300ミリを超えたほか、広い範囲で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月1日

東京都新島村新島(ニイジマ)	332.0	和歌山県串本町潮岬(シオハサキ)	251.0
静岡県南伊豆町石廊崎(イロウサキ)	214.0	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	164.0
鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイダ)	155.0	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	144.0
千葉県館山市館山(タテヤマ)	136.0	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	128.0
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	120.5	愛知県豊橋市豊橋(トヨハシ)	104.5

7月2日

神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	384.5	静岡県森町三倉(ミクラ)	304.0
愛知県新城市作手(ツクテ)	232.5	和歌山県田辺市栗栖川(クリスカワ)	164.5
東京都利島村利島(トシマ)	159.5	山梨県南部町南部(ナンブ)	154.0
鹿児島県十島村宝島(タカラジマ)	148.5	三重県南伊勢町南伊勢(ミナミイセ)	134.0
長野県阿南町阿南(アナン)	132.0	千葉県中央区千葉(チハ)	121.5
奈良県十津川村葛川(クスガワ)	113.5		

7月3日

神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	290.5	静岡県御殿場市御殿場(ゴテンバ)	258.5
千葉県木更津市木更津(キサラツ)	157.5	京都府中京区京都(キョウト)	113.5
山梨県南部町南部(ナンブ)	106.0		

7月4日から7月8日

7月4日から8日は、梅雨前線が本州付近に停滞したほか、前線上に発生した低気圧が東へ進んだ。この影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に雨となり、中国地方では多いところで日降水量が 300 ミリを超えたほか、九州北部地方、四国地方、近畿地方、北陸地方、東北地方では、多いところで日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月5日

福井県福井市美山(ミヤマ)	102.5		
---------------	-------	--	--

7月7日

鳥取県倉吉市倉吉(クラヨン)	325.5	兵庫県宍粟市一宮(イチノミヤ)	182.0
島根県出雲市斐川(ヒカワ)	180.5	岡山県美作市今岡(イマオカ)	165.0
山形県小国町小国(オグニ)	110.0	広島県庄原市高野(タカノ)	103.0

7月8日

山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	219.0	広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイツタ)	202.0
鳥取県鳥取市鹿野(シカ)	160.0	香川県多度津町多度津(タツ)	140.0
島根県吉賀町吉賀(ヨシカ)	112.0		

7月9日から7月10日

7月9日から10日にかけては、梅雨前線が日本海から東日本にかけて停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が不安定となった。この影響により全国的に雨となり、九州南部の多いところで日降水量が 400 ミリを超えたところがあったほか、九州北部地方や北陸地方では多いところで日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月9日

熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソオトヒメ)	185.0	鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	141.0
山口県岩国市玖珂(クカ)	107.0	富山県魚津市魚津(ウオツ)	101.0

7月10日

鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	450.0	宮崎県えびの市加久藤(カクフ)	325.0
熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	173.5		

7月11日から7月14日

7月11日から14日は、梅雨前線が本州付近に停滞した。この影響により日本海側でも大雨となり、中国地方の多いところで日降水量が200ミリを超えたところがあったほか、沖縄地方、東海地方、東北地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月11日

秋田県秋田市秋田(アキタ)	126.0		
---------------	-------	--	--

7月12日

鳥取県境港市境(サカイ)	204.5	秋田県由利本荘市本荘(ホンジョウ)	193.5
島根県松江市鹿島(カシマ)	167.0	広島県庄原市高野(タカノ)	157.5

7月13日

静岡県天竜区佐久間(サクマ)	101.5		
----------------	-------	--	--

7月14日

沖縄県宮古島市下地島(シモジシマ)	161.5	岐阜県美濃加茂市美濃加茂(ミノカモ)	108.5
-------------------	-------	--------------------	-------

(6)7月16日～7月18日:九州南部、四国地方(大雨)＜上空の寒気、湿った空気＞

7月16日から18日にかけて、上空の寒気や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となったため、西日本の太平洋側を中心に雨となり、九州南部や四国地方では日降水量が200ミリを超える大雨となったところがあった。

この大雨により、土砂災害、浸水、住家被害が発生した。(気象庁の調べによる)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月16日

宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	212.5	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	179.0
---------------	-------	-------------------	-------

7月17日

高知県土佐清水市清水(シミス)	205.0	宮崎県日之影町日之影(ヒノカゲ)	185.5
鹿児島県南種子町上中(カシカ)	127.5	大分県佐伯市宇目(ウメ)	126.0

7月18日

高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	240.0	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	184.0
鹿児島県屋久島町尾之間(オノアイタ)	161.0		

(7)7月28日～7月29日:福井県(大雨)＜台風第8号、上空の寒気、湿った空気＞

7月26日から28日にかけて、台風第8号が日本に接近・上陸し、29日から31日にかけて台風第8号から変

わった温帯低気圧が日本海を西へ進んだ。

この影響により、7月28日から29日にかけて北日本や東日本では大雨となったところがあり、福井県では土砂災害、浸水害、住家被害や河川被害、人的被害が発生した。(気象庁の調べによる)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

7月28日

岩手県住田町住田(スマ)	161.0	栃木県真岡市真岡(モオカ)	100.5
--------------	-------	---------------	-------

7月29日

静岡県菊川市菊川牧之原(キクワマキノハラ)	107.5	福井県福井市福井(フクイ)	107.0
東京都小笠原村父島(チチジマ)	106.0		

(8)8月6日～8月26日:全国(大雨、暴風、高波)＜台風第9号、台風第10号、台風第12号、停滞前線＞

8月6日から9日にかけて台風第9号が日本に接近・上陸し、9日から10日にかけては台風第9号から変わった温帯低気圧が北日本を通過した。この影響により、全国的に雨となり、中国地方の多いところで日降水量が300ミリを、東北地方では200ミリを超える大雨となった。また、四国地方や北海道地方では風速30メートル以上の猛烈な風を観測したほか、西日本から北日本にかけて風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

その後、8月11日から19日にかけて、前線が日本付近に停滞し、断続的に活動が活発になった。8月19日から21日にかけては、湿った空気や低気圧の影響を受けたほか、22日から26日にかけては、台風第12号が日本に接近し、その後台風から変わった温帯低気圧が北日本を通過した。特に8月11日から15日にかけては、東シナ海の前線が次第に東へのび、その後、西日本から東日本に停滞し、その前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で広い範囲で大雨となった。特に九州北部地方では多いところで24時間降水量が500ミリを超え、総降水量が1000ミリを超える記録的な大雨となった。

これらの大雨等の影響で、死者15名の人的被害が発生したほか、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(令和3年12月14日の内閣府とりまとめ、令和4年3月25日の消防庁とりまとめによる。)

8月6日から8月7日

8月6日から8月7日は、日本の南を北東へ進み伊豆諸島に接近した台風第10号や東シナ海を北東へ進んだ台風第9号の影響により、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となった。、沖縄地方や東海地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月6日

沖縄県南大東村南大東(ミナダイウ)	176.0	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	105.5
-------------------	-------	---------------	-------

8月8日

8月8日は、台風第10号が関東の東海上を北東へ進み、また台風第9号が九州に接近し20時過ぎに鹿児島県枕崎市付近に上陸した。これらの影響により全国的に雨となり、四国地方、関東甲信地方では多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、九州南部、九州北部地方、東海地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、九州南部、四国地方、関東甲信地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	251.5	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	236.0
高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	205.0	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	165.5
大分県大分市大分(オオイト)	164.0	長崎県五島市上大津(カオオツ)	160.5
福岡県宗像市宗像(ムナカタ)	146.0	鹿児島県薩摩川内市中甕(ナカコシキ)	144.5
茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	142.0	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	130.5
愛媛県西条市成就社(シヨウジュシヤ)	118.0	神奈川県中区横浜(ヨコハマ)	106.0
熊本県芦北町田浦(タノウラ)	100.0		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	24.9	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	24.6
宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	22.8	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	21.4

8月9日

8月9日は、台風第9号が05時過ぎに広島県呉市付近に再び上陸し、09時に温帯低気圧に変わり日本海を北東へ進んだ。この影響により、全国的に雨となり、中国地方では多いところで日降水量が300ミリを超え、東北地方では多いところで日降水量が200ミリを超えたほか、西日本から北日本では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、四国地方では風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、西日本や北日本では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

島根県海士町海士(アマ)	310.0	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	275.0
岩手県普代村普代(フダイ)	234.0	鳥取県大山町大山(ダイセン)	227.0
北海道函館市戸井泊(トイマリ)	193.0	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマタンザン)	154.5
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	145.0	兵庫県新温泉町温泉(オンセン)	143.0
静岡県葵区有東木(ウツギ)	139.5	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	137.5
愛知県豊田市稲武(イナブ)	129.5	山梨県甲府市古関(フルセキ)	126.5
岡山県鏡野町恩原(オンハラ)	125.5	山口県萩市須佐(スサ)	116.0
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	103.0		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	33.6	島根県出雲市斐川(ヒカリ)	27.4
和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	27.3	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	25.5
京都府京丹後市間人(タイサ)	24.7	兵庫県明石市明石(アカシ)	22.2
鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	22.2	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.7
大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	20.8		

8月10日

8月10日は、台風第9号から変わった温帯低気圧が東北地方を通過した。この影響により北日本から東日本の日本海側を中心に雨となり、北陸地方、東北地方、北海道地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、北海道地方では風速30メートル以上の猛烈な風を観測したほか、東海地方、東北地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

北海道函館市川汲(カクミ)	150.0	北海道室蘭市室蘭(ムロラン)	141.5
青森県平内町大和山(ヤマトヤマ)	137.0	富山県上市町上市(カミイチ)	131.5

石川県加賀市加賀菅谷(カガスカタニ)	131.5	北海道標津町糸櫛別(イトケシベツ)	128.0
北海道大空町東藻琴(ヒガシモコト)	127.0	山形県小国町小国(オグニ)	124.5
北海道広尾町広尾(ヒロオ)	123.0	新潟県十日町市松代(マツタイ)	110.5
北海道弟子屈町川湯(カワユ)	104.0		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	30.9	北海道根室市納沙布(ノサップ)	22.0
静岡県熱海市網代(アジロ)	20.3	山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.0

8月11日から8月15日

8月11日から15日は、東シナ海の前線が次第に東へのび、その後西日本から東日本に停滞し、その前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で全国的に雨となった。九州北部地方では多いところで日降水量が400ミリを超え、東海地方では多いところで日降水量が300ミリを超え、九州南部、四国地方、中国地方、近畿地方、関東甲信地方では多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となったほか、北陸地方や東北地方でも多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月11日

熊本県南阿蘇村南阿蘇(ミナアソ)	166.0	長崎県島原市島原(シマハラ)	163.0
鹿児島県薩摩川内市中甕(ナカウシキ)	157.0	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	138.5
福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	125.5	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	117.0

8月12日

長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	415.5	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	311.5
熊本県山鹿市鹿北(カホク)	277.5	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	254.0
佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	245.0	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	198.5
石川県宝達志水町宝達志水(ホウダツシミス)	166.5	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	148.5
和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	143.0	宮崎県椎葉村椎葉(シイハ)	128.0
富山県氷見市氷見(ヒミ)	112.0	島根県益田市匹見(ヒキミ)	108.5
広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	108.0		

8月13日

佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	332.5	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	288.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	280.5	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	253.0
宮崎県えびの市えびの(エビノ)	233.5	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	229.5
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	228.5	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	222.0
広島県安芸高田市甲田(コウダ)	219.0	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	211.0
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	199.5	三重県いなべ市北勢(ホクセイ)	199.0
山口県岩国市羅漢山(ラカンサン)	166.0	静岡県葵区井川(イカワ)	157.0
富山県氷見市氷見(ヒミ)	147.5	兵庫県宍粟市一宮(イチミヤ)	145.0
愛媛県西予市宇和(ウワ)	135.5	島根県安来市伯太(ハクタ)	134.0
京都府福知山市坂浦(サカウラ)	133.0	岡山県井原市佐屋(サヤ)	128.5
山梨県南部町南部(ナンブ)	122.0	徳島県那賀町木頭(キトウ)	120.5
大阪府能勢町能勢(ノセ)	119.5	愛知県愛西市愛西(アイサイ)	117.5
新潟県糸魚川市糸魚川(イトイカワ)	115.0	石川県羽咋市羽咋(ハクイ)	115.0
鹿児島県霧島市溝辺(ミゾベ)	111.5	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	110.0

鳥取県米子市米子(ヨナゴ)	109.0	群馬県草津町草津(クサツ)	108.5
滋賀県東近江市東近江(ヒガシオウミ)	104.5		
8月14日			
佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	439.5	静岡県御殿場市御殿場(ゴテンバ)	329.5
長崎県松浦市松浦(マツウラ)	301.5	福岡県八女市黒木(クロギ)	301.0
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	292.5	岐阜県中津川市付知(ツケチ)	267.5
熊本県山鹿市鹿北(カホク)	260.5	島根県津和野町津和野(ツワノ)	236.5
広島県佐伯区佐伯湯来(サエキユキ)	233.0	山口県山口市徳佐(トクサ)	232.0
滋賀県近江八幡市近江八幡(オウミハチマン)	225.0	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	222.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	218.0	兵庫県養父市大屋(オオヤ)	203.5
鳥取県智頭町智頭(チズ)	203.5	岡山県鏡野町恩原(オンハラ)	198.0
宮崎県えびの市えびの(エビノ)	190.5	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	189.0
徳島県那賀町木頭(キトウ)	188.5	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	164.0
京都府長岡京市長岡京(ナガオカキョウ)	161.5	石川県白山市白山白峰(ハクサンシラミネ)	111.0
鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	111.0	福島県いわき市山田(ヤマダ)	108.5
群馬県嬬恋村田代(タシロ)	103.5	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	103.5
8月15日			
神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	283.0	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	210.0
東京都千代田区東京(トウキョウ)	138.5	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	138.5
茨城県鹿嶋市鹿嶋(カシマ)	134.0	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	131.0
山梨県南部町南部(ナンブ)	115.5	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	110.5
奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	101.5	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	101.0

8月16日から8月20日

8月16日から18日は、前線上の東シナ海に発生した低気圧が日本海へ進み、前線は日本海沿岸まで北上した。8月19日から20日は、前線を伴った低気圧が朝鮮半島付近を北東へ進み、その後、前線は不明瞭となるが、日本付近には高気圧の周辺から暖かく湿った空気が流れ込んだ。これらの影響で九州南部、四国地方、中国地方、近畿地方では多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となったほか、九州北部地方、東海地方、甲信地方、北海道地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月16日			
鹿児島県鹿児島市喜入(キイレ)	245.5	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	108.0
熊本県水俣市水俣(ミナマタ)	105.0	長崎県長崎市長浦岳(ナガウラダケ)	104.5
8月17日			
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	286.5	和歌山県日高川町川辺(カワヘ)	255.0
鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	247.0	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	222.5
徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	218.0	島根県海士町海士(アマ)	207.0
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	195.5	佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	171.5
静岡県川根本町川根本町(カワネホンチョウ)	157.5	熊本県上天草市松島(マツシマ)	152.5
岐阜県高山市六廐(ムヤマ)	136.5	三重県紀北町紀伊長島(キイナガシマ)	133.5
大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	132.0	福岡県朝倉市朝倉(アサクラ)	129.0
山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	108.0		

8月18日

愛知県田原市田原(タハラ)	193.5	静岡県天竜区佐久間(サクマ)	184.0
宮崎県串間市串間(クシマ)	168.5	鹿児島県南大隅町佐多(サタ)	144.0
高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	143.5	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	128.5
長野県飯田市南信濃(ミナミシナノ)	125.5	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	123.0
北海道函館市戸井泊(トイマリ)	108.5	熊本県球磨村一勝地(イツショウチ)	108.5
岐阜県高山市船山(フナヤマ)	107.0	長崎県諫早市諫早(イサハヤ)	104.0

8月19日

高知県香美市繁藤(シゲトウ)	242.5	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	192.0
愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	100.0		

8月20日

鹿児島県肝付町内之浦(ウチノウラ)	144.0	高知県四万十町大正(タイショウ)	139.0
-------------------	-------	------------------	-------

8月21日から8月22日

8月21日から22日は、前線を伴った低気圧が朝鮮半島付近から沿海州付近へと進み、台風第12号が沖縄へ接近した。これらの影響で、全国的に雨となり、沖縄地方や四国地方では多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、沖縄地方では、風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月21日

高知県香美市繁藤(シゲトウ)	258.5
----------------	-------

8月22日

沖縄県宮古島市宮古島(ミヤコジマ)	208.5	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	153.5
-------------------	-------	----------------	-------

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

8月22日

沖縄県宮古島市鏡原(カガミハラ)	20.8
------------------	------

8月23日

8月23日は、前線が日本海から日本の東へのび、前線に向かって日本の南の高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み、また、台風第12号が東シナ海を北へ進んだ。これらの影響により、全国的に雨となり、四国地方と北陸地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

新潟県新発田市赤谷(アカガニ)	141.5	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	106.0
-----------------	-------	-----------------	-------

8月24日から8月25日

8月24日から25日は、日本海を北東へ進んだ台風第12号が24日09時に温帯低気圧に変わり、その後、温帯低気圧は前線を伴い日本海を北東へ進み、北日本に接近した。これらの影響により西日本から東日本の日本海側や北日本を中心に雨となり、九州北部地方、東北地方、北海道地方では多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

8月24日

長崎県対馬市厳原(イツハラ)	101.0
----------------	-------

8月25日

秋田県藤里町藤里(フジサト)	115.5	岩手県雫石町葛根田(カクコンダ)	103.0
北海道釧路市二俣(フタマタ)	100.0		

8月26日

8月26日は、低気圧や前線の影響で西日本から東日本にかけての日本海側や北日本では雨となったところがあった。

[日降水量100ミリ以上を観測した地点なし]

(9)9月11日～9月18日：沖縄・奄美、西日本、東日本(大雨、暴風、高波、突風)＜台風第14号＞

9月6日21時にフィリピンの東で発生した台風第14号は急速に発達しながら西へと進み、10日15時にルソン島の東で最大勢力となった。その後、台風は次第に勢力を弱めながら東シナ海を北へと進んだ。17日19時前、福岡県福津市付近に上陸、九州北部地方を横断した後、18日0時過ぎ、愛媛県松山市付近に再び上陸した。四国を横断した後、18日06時過ぎ、和歌山県有田市付近に再び上陸した。その後、紀伊半島を横断、18日12時に太平洋へ進み、18日15時までに温帯低気圧へ変わった。

この台風の影響により、沖縄地方と西日本、東日本の太平洋側を中心に大荒れの天気となった。高知県高岡郡四万十町では、降り始めからの降水量が400ミリを超える大雨となった。また、沖縄県与那国島で最大瞬間風速45.4メートルを観測したほか、長崎県島原市で最大瞬間風速30.8メートルを観測し、観測史上1位の値を更新するなど、沖縄地方や西日本の太平洋側を中心に非常に強い風が吹き、海上ではうねりを伴って猛烈なしけとなった所があった。

この台風の影響で、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(令和4年3月25日の消防庁取りまとめ、令和3年9月18日国土交通省とりまとめによる)

また、9月18日に和歌山県日高郡美浜町から御坊市にかけて竜巻と見られる日本版改良藤田スケールでJEF1の強さの突風が発生し、負傷者1名の人的被害が発生した。(被害の状況は令和3年11月8日の和歌山地方気象台による現地災害調査報告より)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点(単位:ミリ)]

9月12日

沖縄県多良間村仲筋(ナカスジ)	130.0		
-----------------	-------	--	--

9月13日

宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	247.0	鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベップ)	124.5
---------------	-------	---------------------	-------

9月14日

宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	139.5	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	107.0
---------------	-------	--------------------	-------

9月15日

岩手県山田町山田(ヤマダ)	166.5		
---------------	-------	--	--

9月16日

宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	382.0		
---------------	-------	--	--

9月17日

高知県四万十町窪川(クボカワ)	367.0	長崎県対馬市美津島(ミツシマ)	163.5
大分県佐伯市佐伯(サイキ)	161.0	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	140.5
山口県周防大島町安下庄(アゲノショウ)	137.5	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	137.0

佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	103.5		
9月18日			
静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	289.5	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	198.5
神奈川県海老名市海老名(エビナ)	190.5	北海道釧路市釧路(クシロ)	182.5
岩手県大船渡市大船渡(オオフナト)	170.0	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	168.0
和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	139.5	東京都府中市府中(フチュウ)	133.5
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	124.0	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	111.0
北海道標津町糸櫛別(イトクシベツ)	109.0	山梨県南部町南部(ナンブ)	107.0
愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	105.0	宮城県気仙沼市気仙沼(ケセンヌマ)	103.0

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

9月12日			
沖縄県与那国町所野(トコロ)	29.5	沖縄県宮古島市鏡原(カガミハラ)	20.2
9月13日			
北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	26.1		
9月17日			
長崎県大村市大村(オオムラ)	23.6	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	23.0
佐賀県佐賀市川副(カワソエ)	21.0		
9月18日			
高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	24.6		

(10)10月4日:北海道(突風)＜大気不安定＞

10月4日は、千島近海の低気圧や前線の影響で北海道では雨となり、大雨や雷、強風となったところがあったほか、大気の状態が不安定となり、北海道の上川郡東川町、旭川市、上川郡東神楽町では日本版改良藤田スケールでJEF1の強さのダウンバーストまたはガストフロントと見られる突風が発生し、負傷者2名の人的被害、住家一部損壊5棟が発生した。(被害の状況は令和4年2月9日の旭川地方気象台による現地災害調査報告による)

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点(単位:メートル)]

北海道利尻富士町本泊(モトマリ)	21.3
------------------	------

(11)12月25日～12月28日:西日本、東日本、北日本(大雪)＜冬型＞

12月25日から28日にかけて、強い冬型の気圧配置が続き、上空には強い寒気が流れ込み続けた。この影響で、北日本から西日本の日本海側を中心に断続的に雪が降り、広い範囲で大雪となった。

これらの影響で、死者2名を含む30名の人的被害や住家被害のほか、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機、船舶の欠航等の交通障害、停電が発生した。(令和3年12月30日の消防庁とりまとめ及び令和3年12月28日の内閣府とりまとめによる)

[日降雪量 50センチ以上を観測した主な地点(単位:センチ)]

12月25日			
山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	54		
12月26日			
群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	70	兵庫県朝来市和田山(ワダヤマ)	70

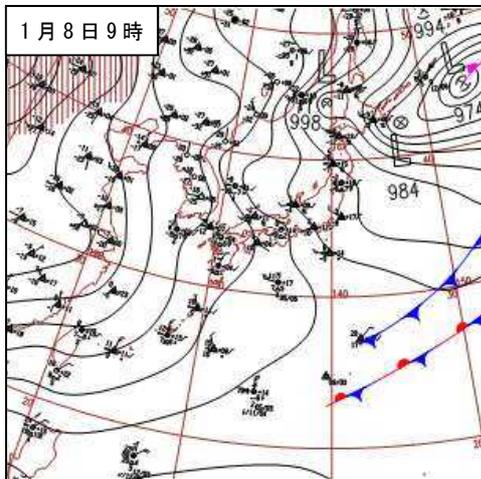
福島県只見町只見(タダミ)	66	鳥取県智頭町智頭(チズ)	65
滋賀県彦根市彦根(ヒコネ)	57	京都府舞鶴市舞鶴(マイヅル)	51
12月27日			
福島県只見町只見(タダミ)	79	新潟県魚沼市守門(スモン)	55
青森県青森市青森(アオモリ)	52		

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料

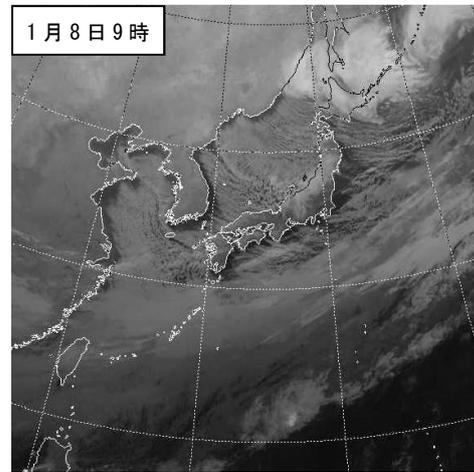
○ 災害番号 (2)

発達した低気圧や強い冬型の気圧配置による大雪等 (1月7日～1月11日)

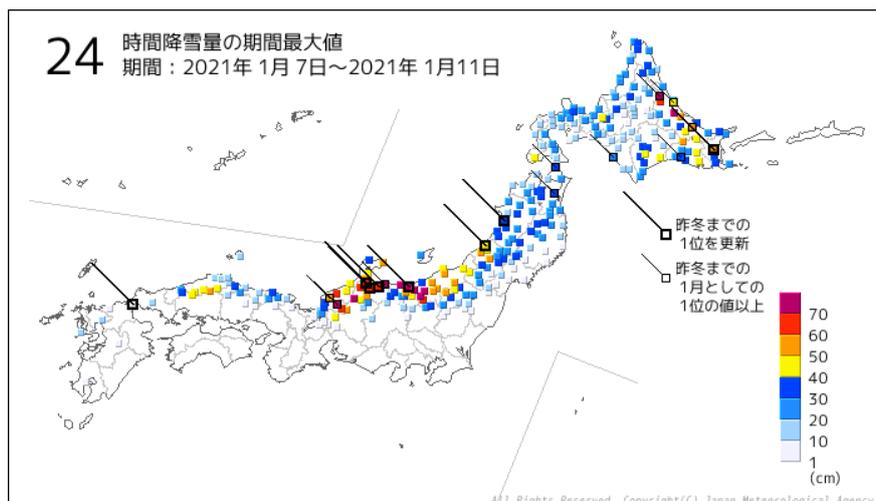
地上天気図



気象衛星画像 (赤外)



期間最大 24 時間降雪量分布図 (1月7日～1月11日)



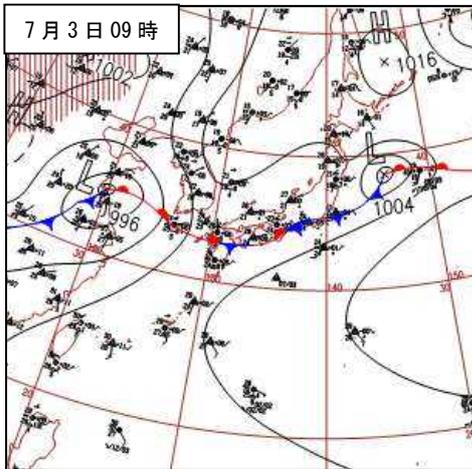
期間最大 24 時間降雪表 (上位 10 地点) (1月7日～1月11日)

順位	都道府県	市町村	地点	期間最大値	
				cm	年月日 時分(まで)
1	新潟県	上越市	安塚(ヤスヅカ)	112	2021/01/08 24:00
2	新潟県	上越市	高田(タカダ)	103	2021/01/09 01:00
3	新潟県	十日町市	十日町(トオカマチ)	101	2021/01/08 18:00
4	新潟県	中魚沼郡津南町	津南(ツナン)	89	2021/01/08 14:00
5	新潟県	糸魚川市	能生(ノウ)	83	2021/01/10 06:00
6	福井県	大野市	大野(オオノ)	73	2021/01/09 04:00
7	北海道	紋別郡遠軽町	遠軽(エンガル)	71	2021/01/08 18:00
〃	岐阜県	大野郡白川村	白川(シラカワ)	71	2021/01/08 19:00
9	北海道	紋別郡西興部村	西興部(ニシオコツペ)	70	2021/01/08 18:00
〃	富山県	下新川郡朝日町	朝日(アサヒ)	70	2021/01/08 23:00

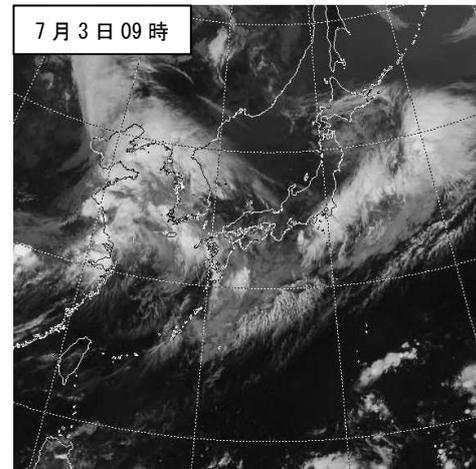
○ 災害番号（5）

梅雨前線による東海地方を中心とした大雨（7月1日～7月3日）

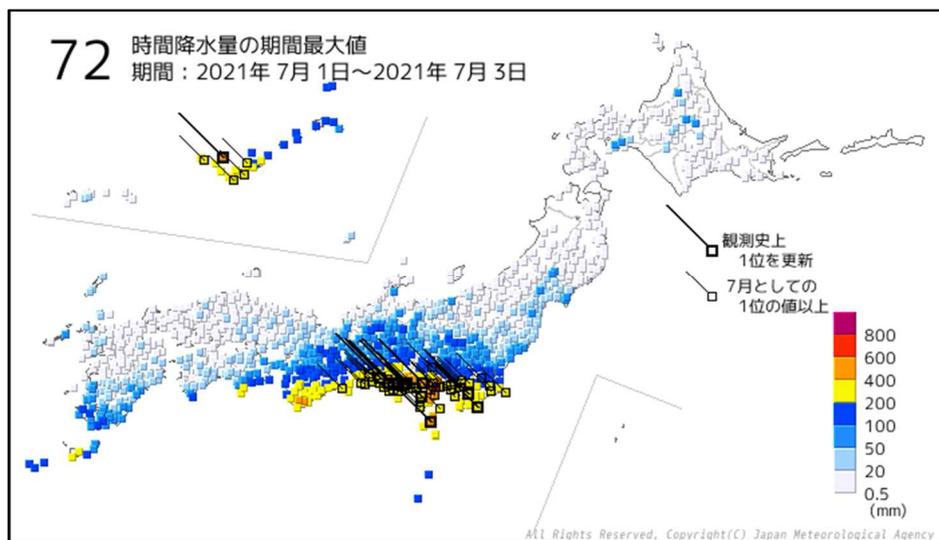
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大 72 時間降水量分布図（7月1日～7月3日）

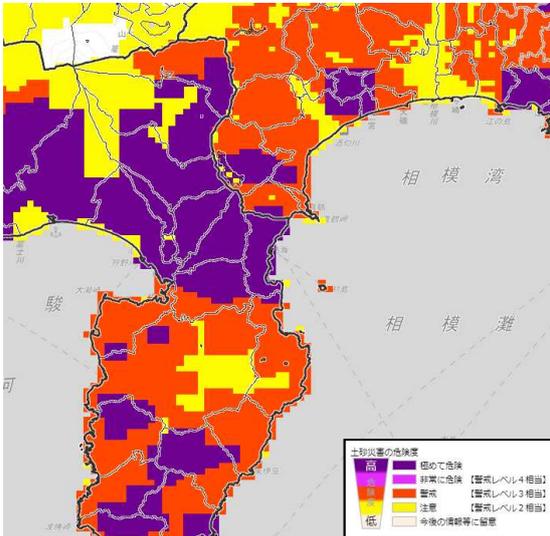


期間最大 72 時間降水量表（上位 10 地点）（7月1日～7月3日）

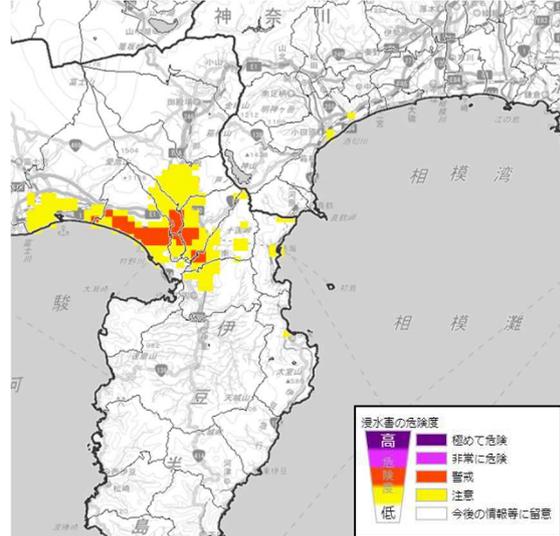
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	神奈川県	足柄下郡箱根町	箱根(ハコネ)	805.5	2021/7/3	16:20
2	静岡県	伊豆市	天城山(アマギサン)	569.0	2021/7/3	18:50
3	静岡県	御殿場市	御殿場(ゴテンバ)	560.0	2021/7/3	24:00
4	静岡県	周智郡森町	三倉(ミクラ)	534.5	2021/7/3	08:40
5	静岡県	静岡市葵区	有東木(ウトウギ)	526.0	2021/7/3	09:20
6	静岡県	富士市	富士(フジ)	512.0	2021/7/3	24:00
7	静岡県	榛原郡川根本町	川根本町(カワネホンチョウ)	508.5	2021/7/3	10:40
8	沖縄県	島尻郡粟国村	粟国(アグニ)	478.0	2021/7/1	07:30
9	静岡県	藤枝市	高根山(タカネサン)	476.0	2021/7/3	24:00
10	静岡県	浜松市天竜区	春野(ハルノ)	462.0	2021/7/3	10:30

7月3日10時（静岡県熱海市で土砂災害が発生する直前の時間帯）におけるキキクル（危険度分布）の状況

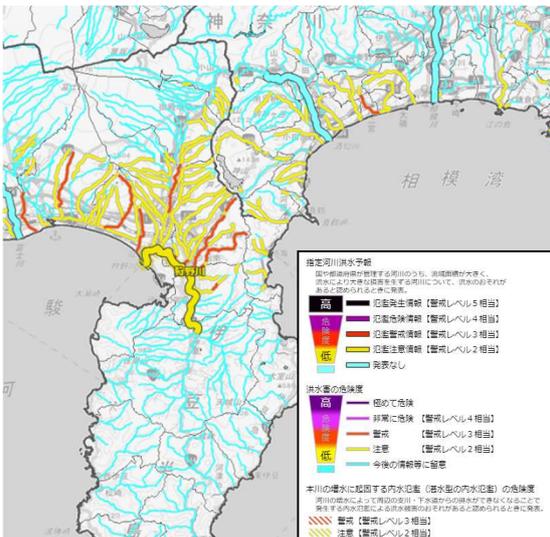
土砂キキクル
（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）



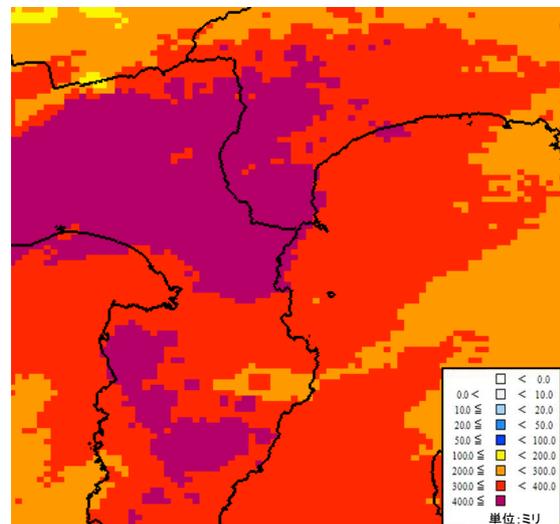
浸水キキクル
（大雨警報（浸水害）の危険度分布）



洪水キキクル
（洪水警報の危険度分布）



参考:72 時間降水量(解析雨量)

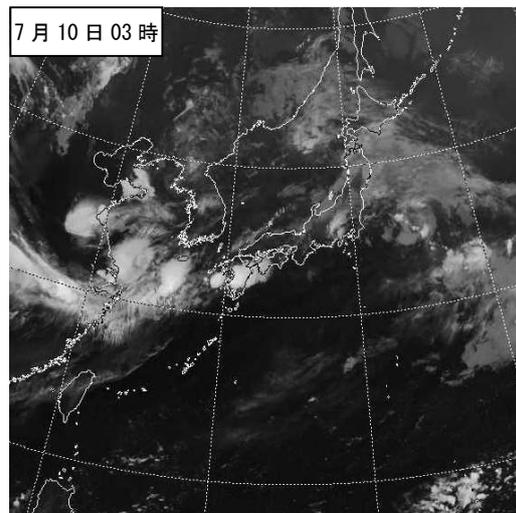
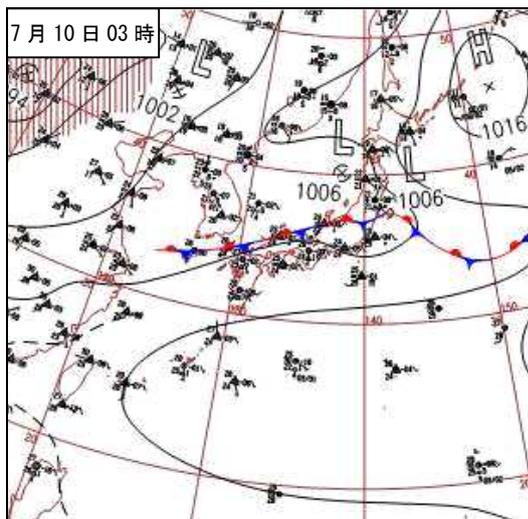


※キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

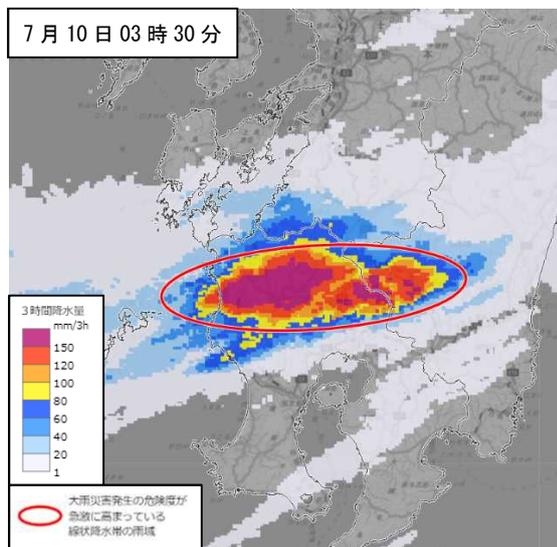
梅雨前線による九州南部を中心とする大雨（7月9日～7月10日）

地上天気図

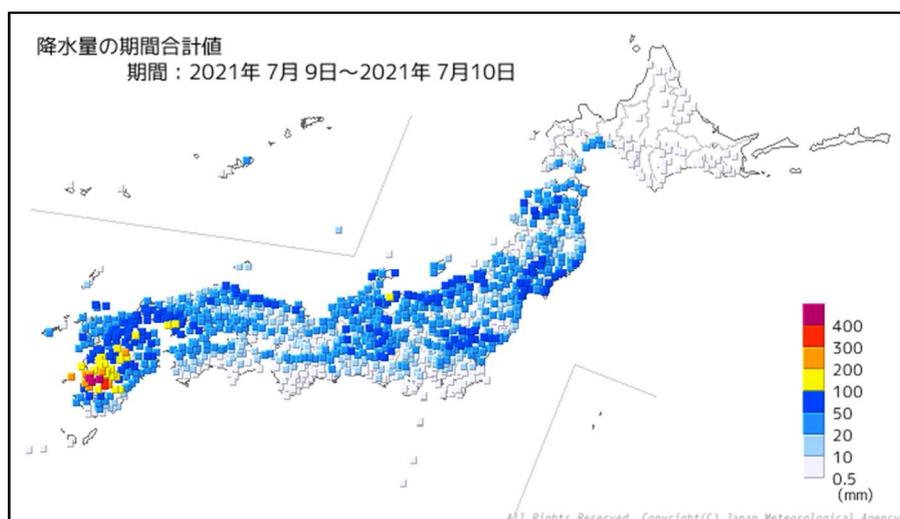
気象衛星画像（赤外）



3時間降水量（解析雨量）



期間総降水量分布図（7月9日～7月10日）



期間総降水量表（上位 10 地点）（7 月 9 日～7 月 10 日）

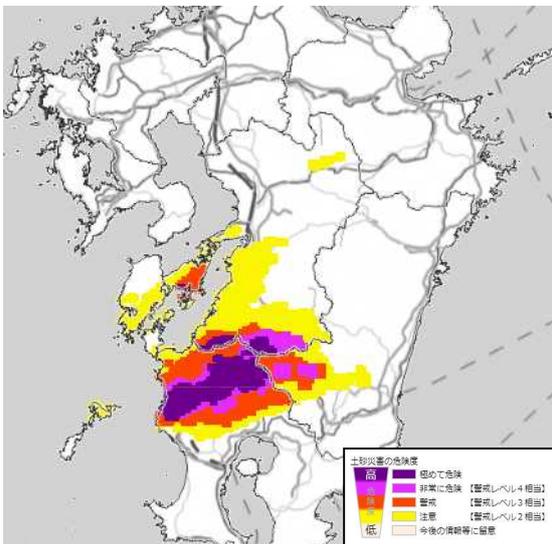
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	鹿児島県	薩摩郡さつま町	さつま柏原(サツマカシワバル)	510.5
2	鹿児島県	伊佐市	大口(オオクチ)	509.0
3	鹿児島県	薩摩郡さつま町	紫尾山(シビサン)	487.0
4	宮崎県	えびの市	えびの(エビノ)	379.0
5	宮崎県	えびの市	加久藤(カクトウ)	374.5
6	宮崎県	小林市	小林(コバヤシ)	292.5
7	鹿児島県	薩摩川内市	川内(センダイ)	278.5
8	鹿児島県	出水市	出水(イズミ)	271.0
9	鹿児島県	薩摩川内市	中甕(ナカコシキ)	226.0
10	鹿児島県	阿久根市	阿久根(アクネ)	217.5

大雨特別警報を発表した頃のキキクル（危険度分布）の状況

7月10日5時30分（鹿児島県薩摩川内市、伊佐市、出水市、さつま町に大雨特別警報を発表）のキキクル（危険度分布）

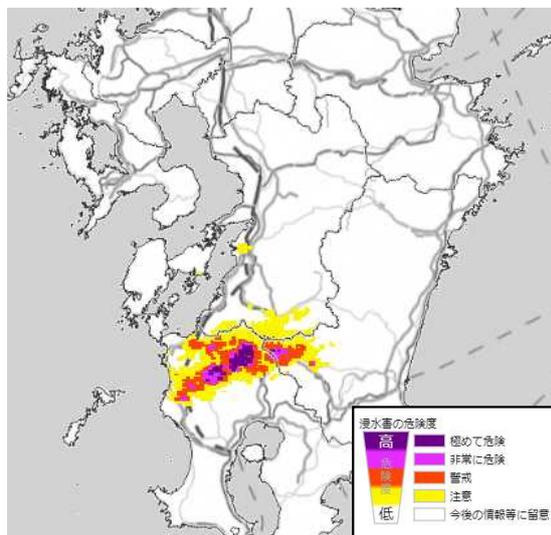
土砂キキクル

（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）



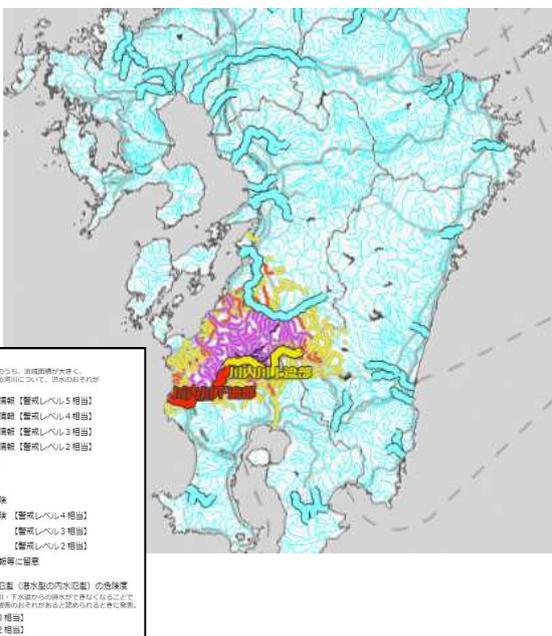
浸水キキクル

（大雨警報（浸水害）の危険度分布）

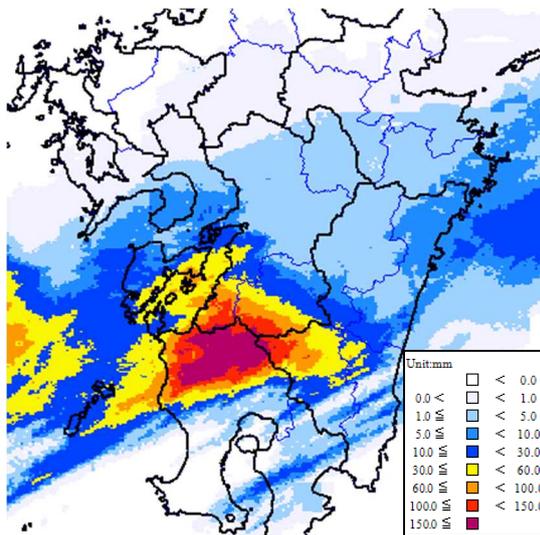


洪水キキクル

（洪水警報の危険度分布）



参考：3時間降水量（解析雨量）



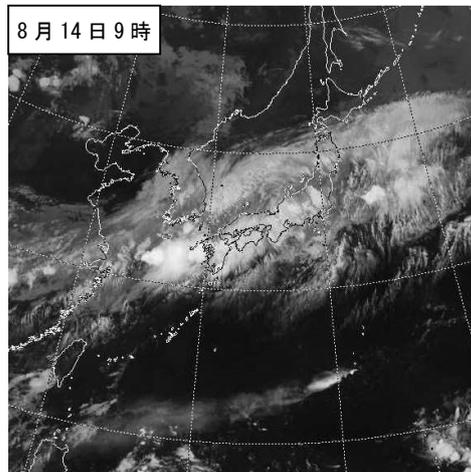
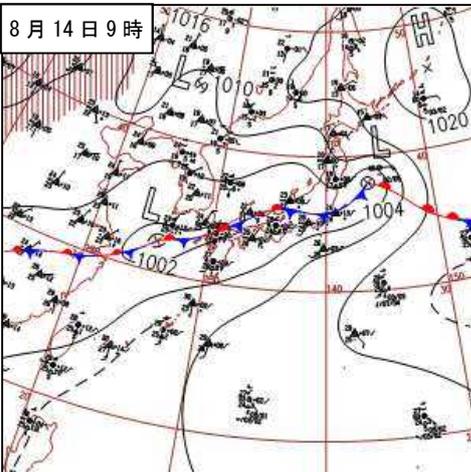
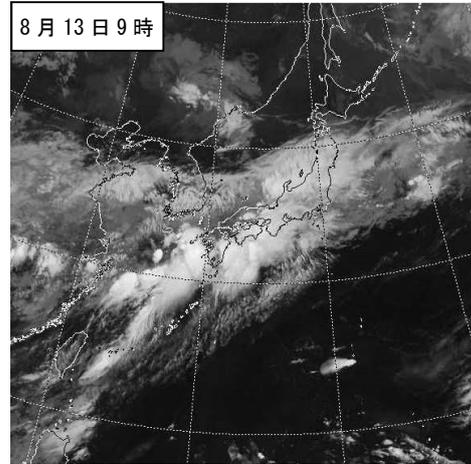
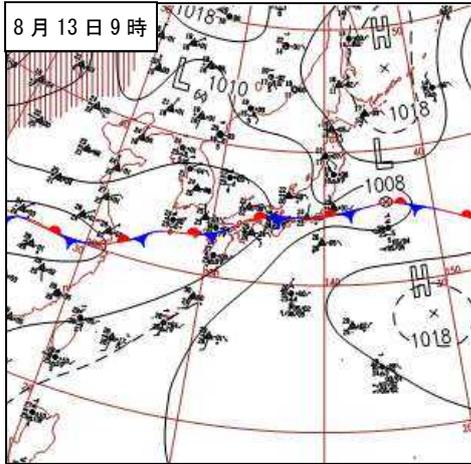
※キキクル（大雨警報・洪水警報の危険度分布）とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

○ 災害番号（8）

前線による九州北部地方を中心とした大雨（8月11日～8月15日）

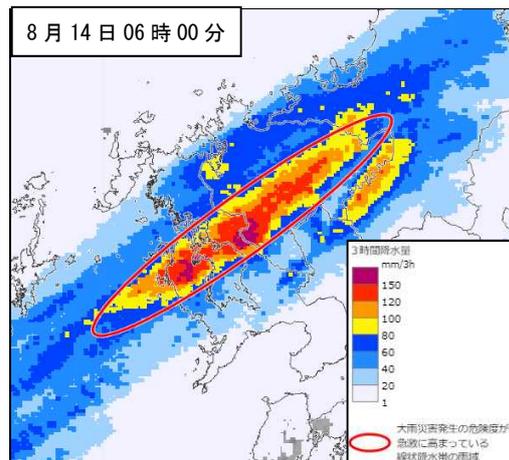
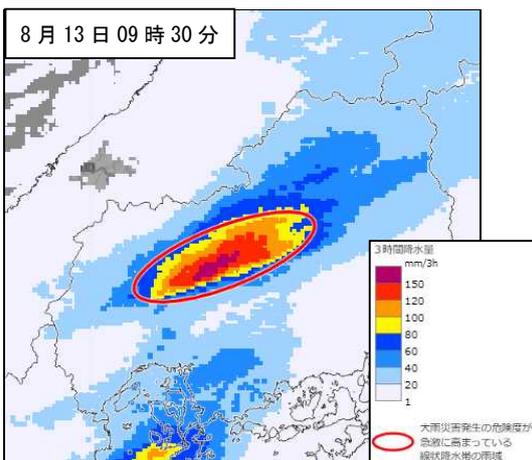
地上天気図

気象衛星画像（赤外）

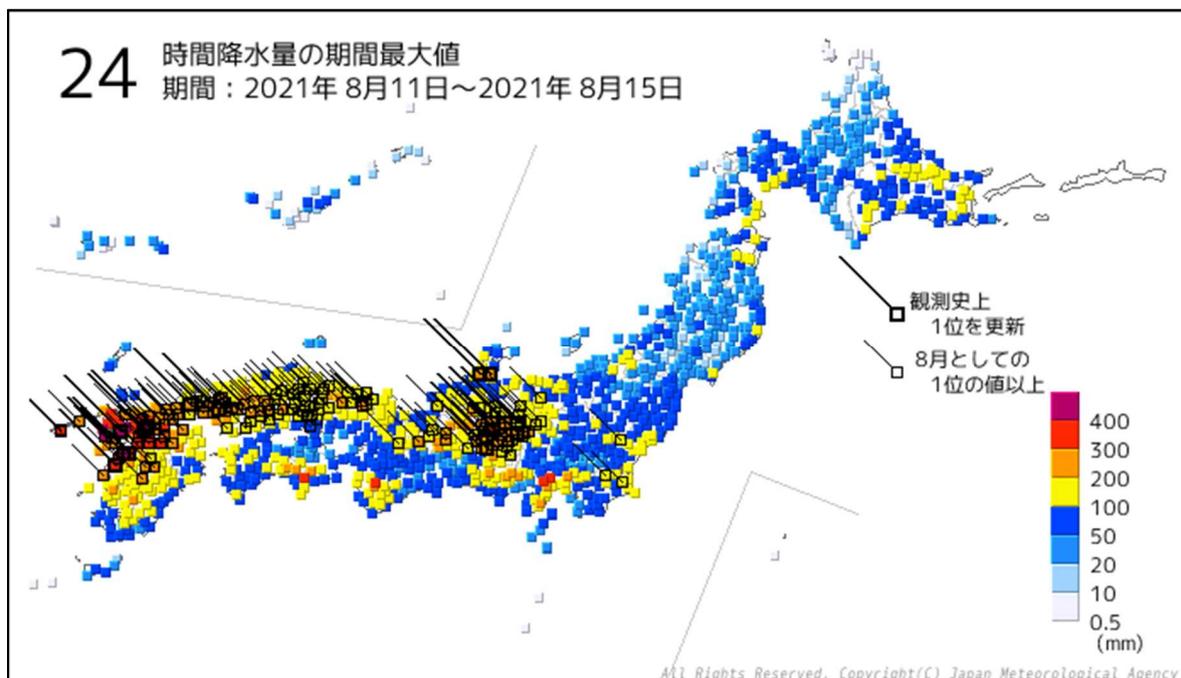


3時間降水量（解析雨量）

3時間降水量（解析雨量）

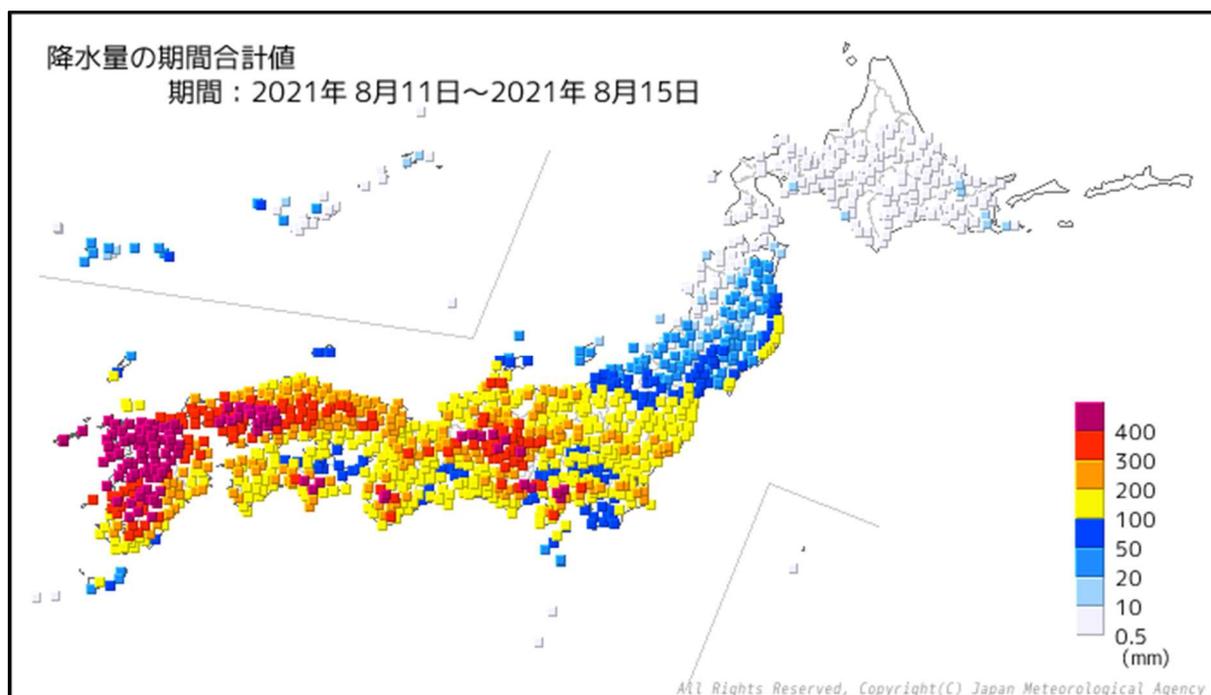


期間最大 24 時間降水量分布図（8 月 11 日～8 月 15 日）



期間最大 24 時間降水量表（上位 10 地点）（8 月 11 日～8 月 15 日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	長崎県	雲仙市	雲仙岳(ウンゼンダケ)	571.5	2021/8/13	08:20
2	佐賀県	嬉野市	嬉野(ウレシノ)	555.5	2021/8/14	11:30
3	佐賀県	杵島郡大町町	大町(オオマチ)	428.0	2021/8/14	12:50
4	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	409.0	2021/8/14	11:10
5	長崎県	長崎市	長浦岳(ナガウラダケ)	404.5	2021/8/14	10:20
6	長崎県	西海市	西海(サイカイ)	401.5	2021/8/14	10:00
7	福岡県	大牟田市	大牟田(オオムタ)	397.5	2021/8/13	04:40
8	福岡県	久留米市	久留米(クルメ)	387.0	2021/8/14	11:40
9	長崎県	南島原市	口之津(クチノツ)	386.0	2021/8/13	07:40
10	熊本県	天草市	本渡(ホンド)	378.0	2021/8/13	10:40



期間総降水量表（上位10地点）（8月11日～8月15日）

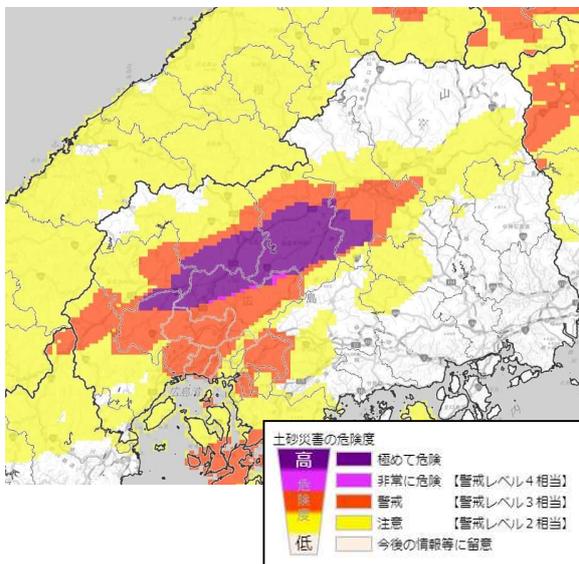
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	佐賀県	嬉野市	嬉野(ウレシノ)	1024.0
2	長崎県	雲仙市	雲仙岳(ウンゼンダケ)	936.5
3	長崎県	長崎市	長浦岳(ナガウラダケ)	894.5
4	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	875.5
5	佐賀県	杵島郡大町町	大町(オオマチ)	861.0
6	熊本県	山鹿市	鹿北(カホク)	855.5
7	福岡県	大牟田市	大牟田(オオムタ)	855.0
8	福岡県	八女市	黒木(クロギ)	850.5
9	佐賀県	佐賀市	佐賀(サガ)	831.5
10	宮崎県	えびの市	えびの(エビノ)	777.0

大雨特別警報を発表した頃のキキクル（危険度分布）の状況

8月13日09時（広島県広島市に大雨特別警報を発表した直後）のキキクル（危険度分布）

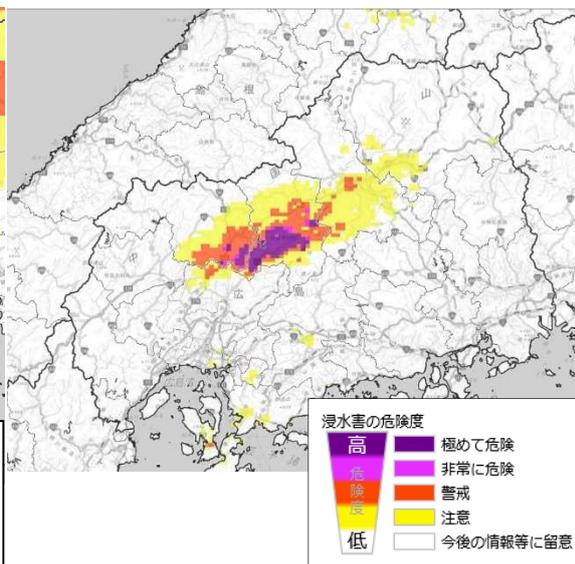
土砂キキクル

（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）



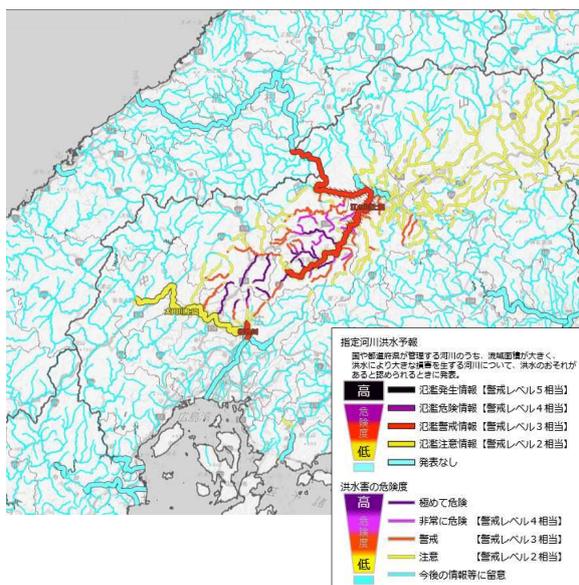
浸水キキクル

（大雨警報（浸水害）の危険度分布）

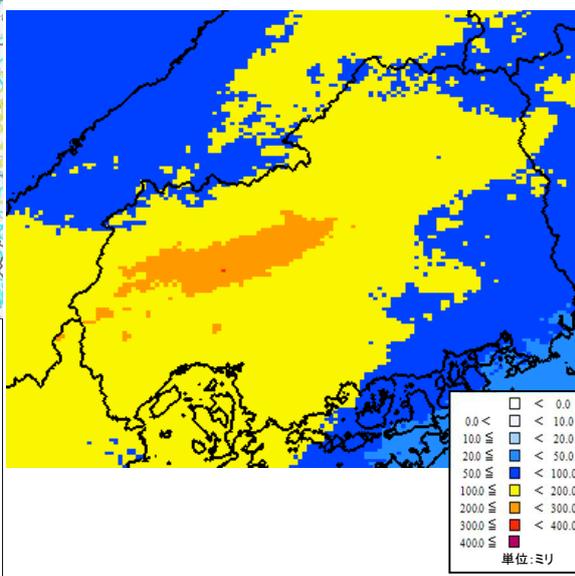


洪水キキクル

（洪水警報の危険度分布）



参考:72時間降水量(解析雨量)

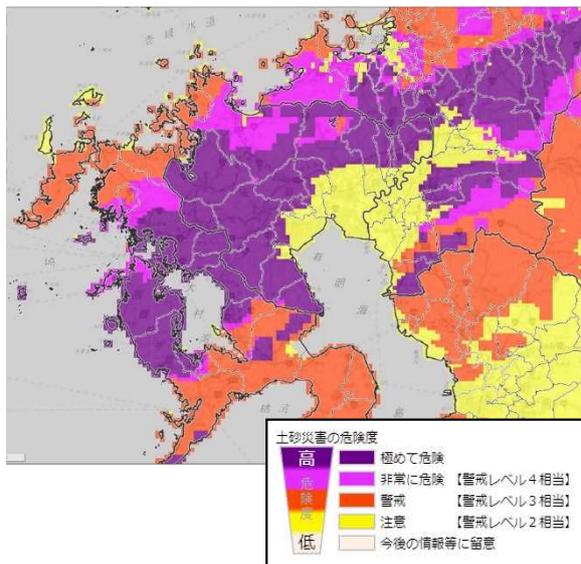


※キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

8月14日03時(佐賀県、長崎県に大雨特別警報を発表した直後)

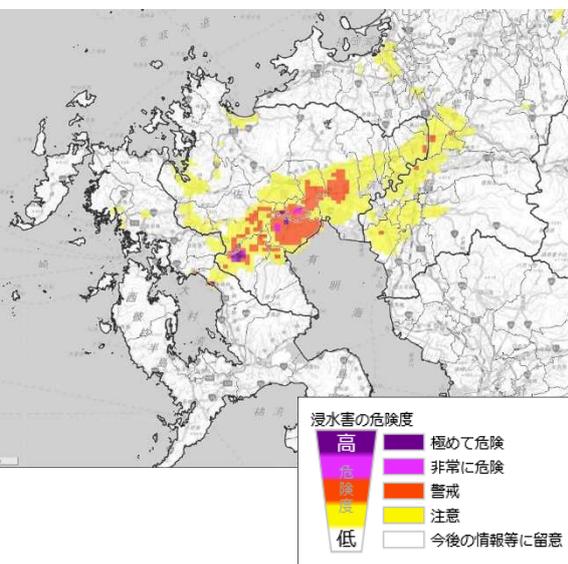
土砂キキクル

(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



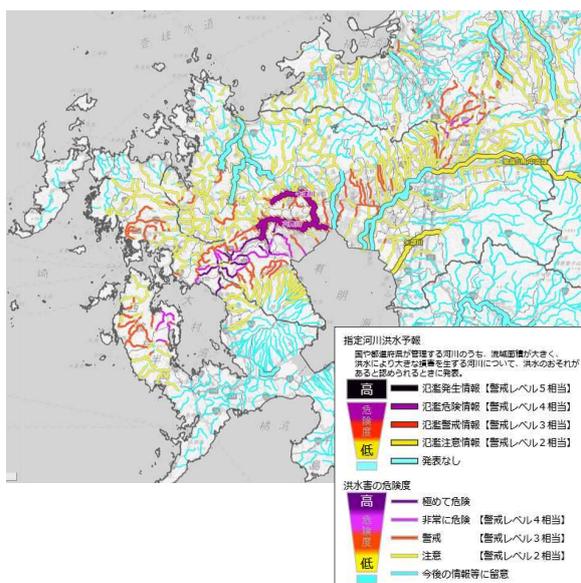
浸水キキクル

(大雨警報(浸水害)の危険度分布)

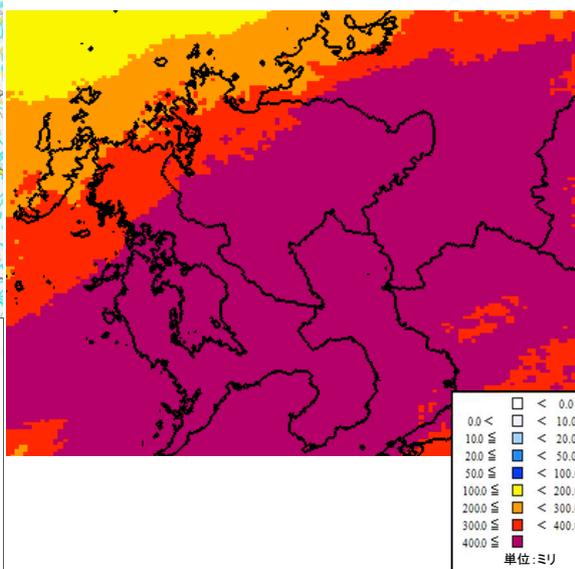


洪水キキクル

(洪水警報の危険度分布)



参考:72時間降水量(解析雨量)

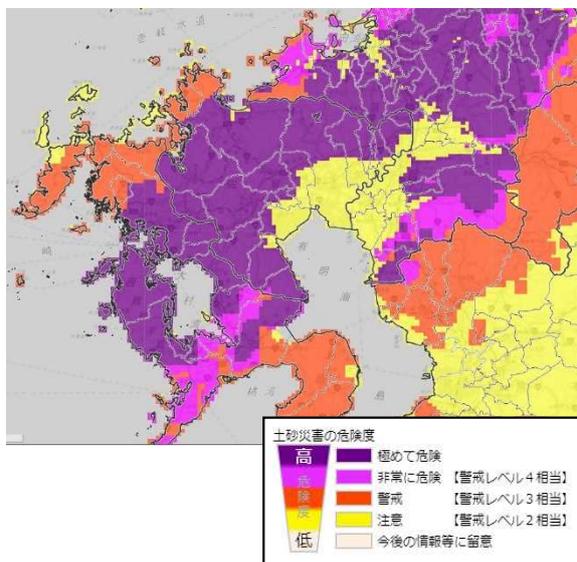


※キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

8月14日06時(福岡県に大雨特別警報を発表した直後)

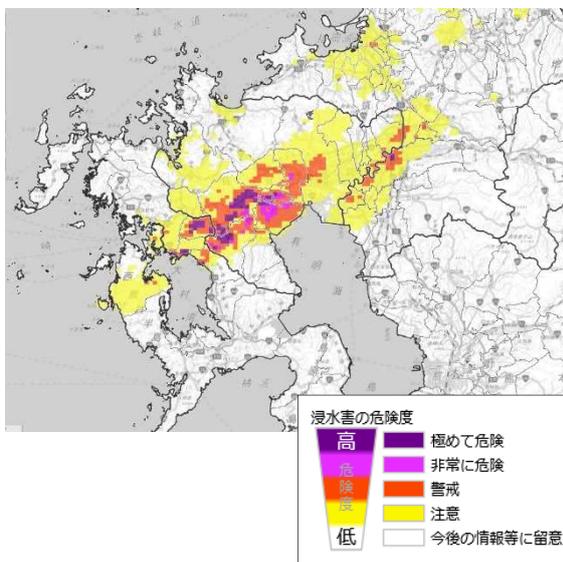
土砂キキクル

(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



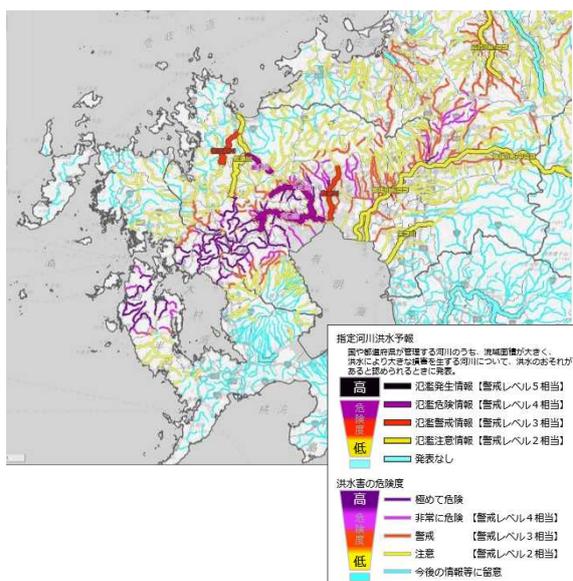
浸水キキクル

(大雨警報(浸水害)の危険度分布)

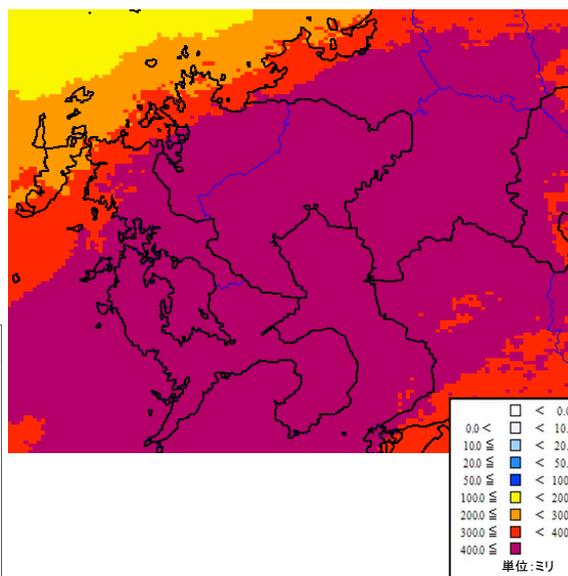


洪水キキクル

(洪水警報の危険度分布)



参考:72時間降水量(解析雨量)

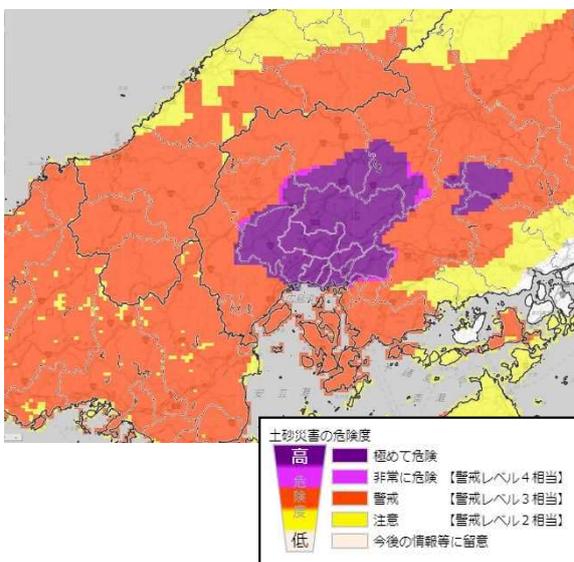


※キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

8月14日13時(広島県に大雨特別警報を発表した直後)

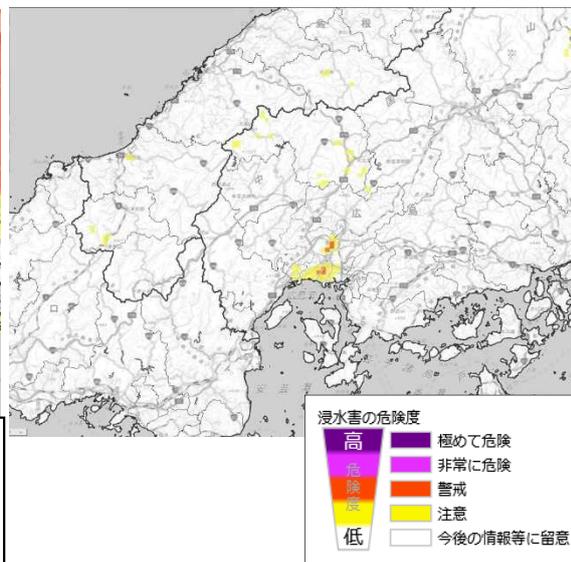
土砂キキクル

(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



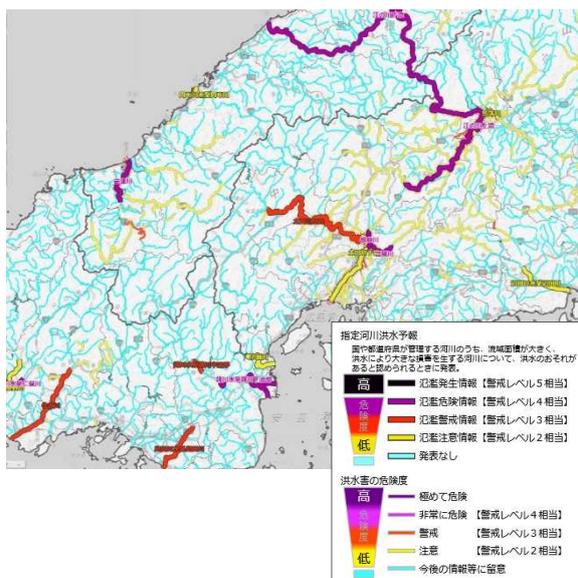
浸水キキクル

(大雨警報(浸水害)の危険度分布)

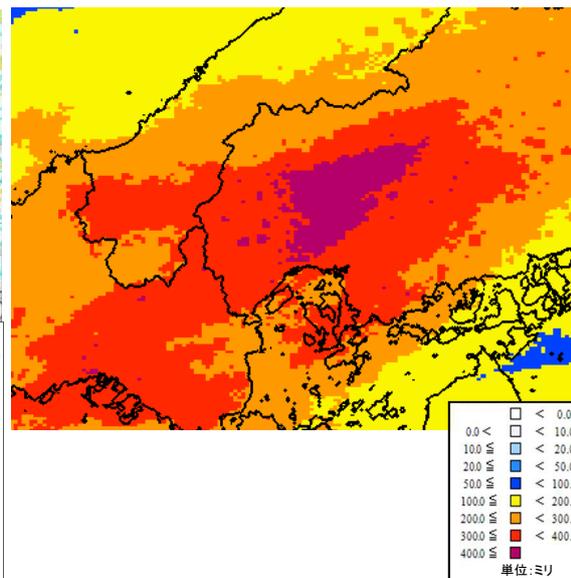


洪水キキクル

(洪水警報の危険度分布)



参考:72時間降水量(解析雨量)



※キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)とは、土砂災害、浸水害、洪水害の発生する危険度の高まりを5段階に色分けして地図表示した情報。大雨警報や洪水警報が発表されたときに実際にどこで危険度が高まっているかが一目で確認できる。

資料1-2-2 令和3年(2021年)に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	日本版改良藤田(JEF)スケール	気象状況
5月1日 18時30分頃	竜巻	静岡県菊川市、牧之原市	負傷者3名、住家半壊5棟	JEF2	日本海低気圧、寒気の移流
5月1日 18時30分頃	不明	静岡県牧之原市	住家半壊1棟	JEF1	日本海低気圧、寒気の移流
7月11日 14時30分頃	ダウンバースト または ガストフロント	群馬県桐生市、太田市、栃木県足利市、佐野市	負傷者1名	JEF0	梅雨前線、暖気の移流、上空の寒気
9月18日 00時04分頃	竜巻	和歌山県日高郡美浜町	負傷者1名	JEF1	台風、暖気の移流、停滞前線
10月4日 13時00分頃	ダウンバースト または ガストフロント	北海道上川郡東川町、旭川市、上川郡東神楽町	負傷者2名	JEF1	寒冷前線
12月1日 04時00分頃	不明	神奈川県藤沢市	負傷者2名	JEF0	寒冷前線

被害（死者、負傷者、住家全壊、住家半壊）が発生したものを掲載。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載している。

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)とは、米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをより的確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケール。

階級	風速(m/s)の範囲 (3秒値)	主な被害の状況(参考)
	JEF0	
JEF1	39-52	
JEF2	53-66	
JEF3	67-80	
JEF4	81-94	
JEF5	95-	

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

資料 1-2-3 令和 3 年（2021 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

<内閣府作成資料等から引用>

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

期間	災害原因	気象要因
5/7～7/14	豪雨	梅雨前線
8/7～8/23	暴風雨、豪雨	前線、台風第 9 号、台風第 10 号

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
5/7～7/14	豪雨	梅雨前線	島根県	雲南市、飯南町
			広島県	庄原市
			熊本県	山都町
			鹿児島県	さつま町、十島村
7/16～7/18	豪雨	湿った空気	愛媛県	愛南町
			宮崎県	諸塚村、日之影町
7/28～7/29	暴風雨	台風第 8 号	福井県	越前町
8/7～8/23	暴風雨、豪雨	前線、台風第 9 号、台風第 10 号	青森県	風間浦村
			島根県	知夫村、西ノ島町、隠岐の島町
			佐賀県	武雄市、大町町

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 令和3年(2021年)台風の概要

2-1 令和3年(2021年)に発生した台風

台風の発生数は平年より少ない22個(平年値25.1個)であった。特に、台風の発生数が最も多くなる8～9月において、例年台風が多く発生する海域での対流活動が不活発で、この期間の台風の発生数が8個(平年値10.7個)と平年より少なくなり、このため年間の発生数も平年より少なくなった。日本への台風の接近数は平年並みの12個(平年値11.7個)であった。日本への台風の上陸は第8号、第9号、第14号の3個(平年値3.0個)で、このうち第8号は宮城県に初めて上陸した台風となるとともに、2016年台風第10号に次いで、東北地方太平洋側に上陸した2番目の台風となった。また、台風第14号は福岡県に初めて上陸した台風となった。

表2.1 令和3年(2021年)の台風発生数*1、日本への上陸数*2、日本への接近数*3と平年値及び令和2年(2020年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	
平年値	上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
	接近数				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
	発生数					1	1		8	3	6	3	1	23
令和2年 (2020年)	上陸数													0
	接近数							4	3	1				7
	発生数		1		1	1	2	3	4	4	4	1	1	22
令和3年 (2021年)	上陸数							1	1	1				3
	接近数				1		2	2	3	1	2		1	12

(注) ・平年値は、平成3年(1991年)～令和2年(2020年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

発生*1 「発生」は協定世界時(UTC)を基準とする。

上陸*2 台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*3 台風が中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (+)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	6	7	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	5	2	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	7	5	4	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	4	4	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	2	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	6	4	2	3	28 (+)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	6	5	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (+)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	2	2	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	8	6	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
16 28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	1	26 (0)
17 29	0	0	0	1	0	1	8	6	3	3	3	2	27 (0)
18 30	1	1	1	0	0	4	5	9	4	1	3	0	29 (+)
19 R.1	1	1	0	0	0	1	4	5	6	4	6	1	29 (+)
2020 2	0	0	0	0	1	1	0	8	3	6	3	1	23 (-)
21 3	0	1	0	1	1	2	3	4	4	4	1	1	22 (-)
平年値 1991-2020	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。
年間の(-)は24個未満、(0)は24個以上28個未満、(+)は28個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H.1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
18 30	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
19 R.1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
2020 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21 3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3	-	-	3.0
1991-2020													

台風の日本への上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	2	5	1	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
16 28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	0	11
17 29	0	0	0	0	0	0	4	2	2	2	0	0	8
18 30	0	0	0	0	0	2	4	7	2	2	1	0	16
19 R.1	0	0	0	0	0	1	2	3	5	4	1	0	15
2020 2	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0	7
21 3	0	0	0	1	0	2	2	3	1	2	0	1	12
平年値 1991-2020	-	-	-	0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7

台風の接近：台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
18 30	0	0	0	0	0	1	2	5	2	2	0	0	10
19 R.1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	0	8
2020 2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	5
21 3	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	0	0	6
平年値	-	-	-	0.0	0.2	0.4	1.0	1.6	1.9	0.9	-	-	5.8
1991-2020													

台風の北海道・本州・四国・九州への接近：台風が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 令和3年(2021年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時			
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km							
1	DUJUAN	2 16 15	6.9	136.9	2 18 09	7.0	132.6	2 19 15	996	2 20 15	20	2 21 15	NW:650 SE:330	2 21 21	10.1	126.9	TD	2 23 09	15.2	122.2
2	SURIGAE	4 13 03	7.6	138.0	4 14 03	7.9	137.2	4 18 09	895	4 18 09	60	4 19 15	440	4 25 09	21.8	136.2	L	5 1 03		域外
3	CHOI-WAN	5 29 09	6.4	137.1	5 31 03	7.2	131.6	6 3 21	998	6 4 09	20	6 5 09	220	6 5 15	26.9	126.2	L	6 6 09	32.2	136.3
4	KOGUMA	6 11 09	17.7	113.5	6 12 03	18.3	110.6	6 13 09	996	6 13 09	18	6 12 09	390	6 13 15	20.0	104.0	TD	6 13 21	20.7	101.9
5	CHAMPI	6 20 09	9.9	150.9	6 23 09	16.1	141.3	6 25 21	980	6 25 21	35	6 25 03	280	6 28 03	36.4	145.3	L	6 29 03	41.1	159.7
6	IN-FA	7 16 03	16.6	135.1	7 17 21	21.6	133.5	7 22 18	950	7 22 18	45	7 24 18	600	7 28 03	32.2	117.9	TD	7 31 15	40.9	121.5
7	CEMPAKA	7 17 09	18.9	117.1	7 19 03	20.9	113.6	7 20 15	980	7 20 15	35	7 20 09	220	7 22 09	22.2	108.8	TD	7 25 09	18.1	107.1
8	NEPARTAK	7 22 21	21.5	146.1	7 23 21	24.2	148.8	7 27 15	990	7 27 15	20	7 25 21	E:700 W:390	7 28 15	40.4	139.8	L	7 31 15	40.9	133.9
9	LUPIT	8 2 21	21.1	111.8	8 4 09	21.2	115.4	8 9 05	984	8 9 05	23	8 9 05	SE:600 NW:330	8 9 09	35.4	133.8	L	8 16 03	47.6	175.2
10	MIRINAE	8 3 15	23.8	124.5	8 5 15	26.9	128.1	8 8 21	980	8 8 21	25	8 9 15	S:500 N:220	8 10 09	39.0	158.0	L	8 11 09	37.2	169.3
11	NIDA	8 3 21	20.8	144.4	8 4 09	25.1	146.6	8 7 15	992	8 7 15	30	8 8 03	S:440 N:220	8 8 09	39.9	169.0	L	8 8 21	41.7	175.0
12	OMAIS	8 18 21	15.4	138.4	8 20 21	19.1	130.2	8 22 15	994	8 22 15	23	8 24 03	E:220 W:110	8 24 09	37.6	131.4	L	8 31 21	51.9	179.6
13	CONSON	9 5 15	9.8	130.2	9 6 09	10.3	127.8	9 11 15	992	9 11 15	25	9 10 03	NW:330 SE:170	9 12 03	15.1	109.2	TD	9 13 21	15.9	107.8
14	CHANTHU	9 5 15	12.4	140.5	9 6 21	14.6	138.0	9 11 09	905	9 11 09	60	9 12 18	560	9 18 15	34.4	137.6	L	9 20 09	31.8	140.7
15	DIANMU	9 22 09	11.9	115.0	9 23 15	14.8	110.5	9 23 21	1000	9 23 21	18	9 23 21	N:300 S:170	9 24 03	15.5	108.1	TD	9 26 09		域外
16	MINDULLE	9 22 21	11.2	148.6	9 23 21	13.6	143.3	9 27 03	920	9 27 03	55	10 2 03	E:850 W:600	10 2 09	39.4	147.8	L	10 5 21		域外
17	LIONROCK	10 5 09	11.6	119.0	10 8 03	17.3	110.9	10 9 21	994	10 10 09	18	10 9 03	E:750 W:500	10 10 15	20.8	106.9	TD	10 11 03	20.6	105.4
18	KOMPASU	10 7 09	13.7	136.5	10 8 09	14.2	133.6	10 13 15	975	10 13 15	30	10 11 09	1100	10 14 21	19.2	105.6	TD	10 14 21	19.2	105.6
19	NAMTHEUN	10 9 03	16.6	166.0	10 10 09	17.0	160.4	10 16 15	996	10 16 15	25	10 14 03	NE:560 SW:220	10 17 09	33.7	167.2	L	10 19 09		域外
20	MALOU	10 23 15	11.3	141.5	10 25 03	15.4	139.0	10 28 18	965	10 28 18	40	10 28 18	E:500 W:440	10 29 21	33.7	149.9	L	10 31 21		域外
21	NYATOH	11 29 03	11.7	144.0	11 30 09	12.5	139.0	12 3 09	925	12 3 09	50	12 3 15	500	12 4 09	28.4	146.5	L	12 4 15	29.0	148.1
22	RAI	12 12 03	5.8	144.8	12 13 15	6.0	141.0	12 19 09	915	12 19 09	55	12 19 09	N:560 S:280	12 21 03	19.9	112.8	TD	12 21 15	21.3	115.3

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 令和3年(2021年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第2号 (2102 SURIGAE スリゲ)

4月13日03時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、14日03時に同海域にて台風第2号となった。台風はそのまま北西へ進み、18日03時にはフィリピンの東海上で最大勢力となったが、その後徐々に勢力を弱め、19日09時頃進路を北に変えた。台風は22日09時頃、ルソン島の北東海上で進路を北東に変え、23日21時頃、沖縄の南海上で進路を南東に変えた。25日09時までに、日本の南海上で熱帯低気圧となり、北東方向へ加速した後、28日09時頃、千島の東海上で東に進路を変え5月1日03時前に、東経180度線を通じた。

(2) 台風第3号 (2103 CHOI-WAN チョーイワン)

5月29日09時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西へ進み、30日に同海域で進路を北西に変え、31日03時にミンダナオ島の東海上で台風第3号となった。台風は6月1日03時に同海域で最大勢力となり、その後弱まった勢力でフィリピンを通過し、3日09時に南シナ海で再び最大勢力となり、4日には同海域で進路を北東に変え、5日15時までに、東シナ海で温帯低気圧となった。温帯低気圧は6日15時に日本の南海上で消滅した。

(3) 台風第5号 (2105 CHAMPI チャンパー)

6月20日09時にチューク諸島周辺で発生した熱帯低気圧は、西北西へ進み、マリアナ諸島周辺で次第に進路を北向きに変え、23日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第5号となった。同海域を進んだ後、25日15時に日本の南海上で最大勢力となり、その後同海域で勢力を弱めつつ、北北東へ加速し、28日03時までに日本の東海上で熱帯低気圧になった。その後北東へ進路を変え、29日09時に日本のはるか東海上で消滅した。

(4) 台風第6号 (2106 IN-FA インファ)

7月16日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、17日21時に日本の南海上の南大東島付近で台風第6号となり北西へ進んだ。進路を西に変えた後、22日の03時に沖縄の南海上で最大勢力となった。その後、急に北西へ進路を変えた後、東シナ海へ入り26日に華中の沿岸に上陸した。その後、勢力を弱め、28日03時に熱帯低気圧になり、30日の03時までに温帯低気圧に変わった。北東へ進んだ後、31日21時に中国東北区で消滅した。

(5) 台風第8号 (2108 NEPARTAK ニパルタック)

7月22日21時に小笠原諸島近海で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、23日の21時に南鳥島の西で台風第8号となった。24日の21時に最大勢力となり、その後、北西へ進んだ。日本の東海上で進路を北向きに変え、28日の06時前に宮城県の石巻市付近に上陸し、その後、北西へ進み28日15時に日本海で熱帯

低気圧に変わり、31日の21時に同海域上で消滅した。

(6) 台風第9号 (2109 LUPIT ルピート)

8月2日の21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は東へ進み、4日の09時に同海域で台風第9号となった。台風第9号は次第に進路を北北東へ変え、5日に華南に上陸し、北東へ進んだ。その後、台湾海峡を渡り、7日の09時頃に東シナ海に入った。北東の進路を維持しながら、8日の20時過ぎ、鹿児島県枕崎市付近に上陸した。9日の03時に瀬戸内海で最大勢力となり、同日の05時過ぎに広島県呉市付近に再び上陸し、09時までには鳥取県で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は日本海に入り東北地方を横断した後、東北東へ進み、16日の09時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(7) 台風第10号 (2110 MIRINAE ミリネ)

8月3日の15時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、5日の15時に沖縄本島付近で台風第10号となった。台風第10号は東へ進んだ後、次第に北東へ進路を変え、8日の03時に八丈島付近で最大勢力となった。次第に進路を東へ変え、10日の09時までに日本のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、11日の15時に同海域上で消滅した。

(8) 台風第11号 (2111 NIDA ニーダ)

8月3日の21時に小笠原諸島近海で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、4日の09時に同海域上で台風第11号となった。台風第11号は次第に進路を東北東へ変え、7日の03時に日本のはるか東海上で最大勢力となった。東北東の進路を維持しながら台風第11号は8日の09時までに同海域上で温帯低気圧に変わり、9日の03時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(9) 台風第12号 (2112 OMAIS オーマイス)

8月18日の21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、西北西へ進み、20日の21時に同海域上で台風第12号となった。台風第12号は北西へ進み、21日の21時に最大勢力となった。その後、東シナ海を北上し、次第に進路を北東へ変えた。朝鮮半島を横断した後、24日の09時までに日本海で温帯低気圧へ変わった。その後、次第に進路を東へ変え、9月1日の03時にアリューシャン近海で消滅した。

(10) 台風第14号 (2114 CHANTHU チャンスー)

9月5日の15時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、6日の21時にフィリピンの東海上で台風第14号となった。台風第14号は急速に発達しながら西へと進み、10日の15時にルソン島の東で最大勢力となった。その後、台風は次第に勢力を弱めながら東シナ海を北へと進んだ。14日の03時頃、同海域上で急に進路を南東へ変えた後ほぼ停滞し、その後北東へ進んだ。17日の19時前、福岡県福津市付近に上陸、九州北部地方を横断した後、18日の0時過ぎ、愛媛県松山市付近に再び上陸した。四国を横断した後、18日の06時過ぎ、和歌山県有田市付近に再び上陸した。その後、紀伊半島を横断、18日の12時に太平洋へ進み、18日の15時までに温帯低気圧へ変わった。20日の15時に八丈島の

南東海上で消滅した。

(11) 台風第16号 (2116 MINDULLE ミンドゥル)

9月22日の21時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、23日の21時に同海域で台風第16号となった。台風第16号は西北西へ進んだ後、進路を北西に変えた。台風は次第に進路を北に変え、26日の15時にフィリピンの東海上で最大勢力となった。台風第16号は日本の東海上で北東へ加速し、10月2日の09時にまでに同海域で温帯低気圧に変わった。その後5日の21時前に温帯低気圧は北緯60度を越えた。

(12) 台風第20号 (2120 MALOU マーロウ)

10月23日の15時にグアム島の南西海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、24日の03時過ぎに進路を北北西に変え、25日の03時にフィリピンの東海上で台風第20号となった。台風第20号は次第に進路を北に変え、28日の03時に小笠原諸島の南西海上で最大勢力となった。その後、次第に速度を速めながら北東へ進み、29日の21時までに日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧はその後、千島の東海上で進路を東南東に変え、31日の21時前に東経180度を越えた。

(13) 台風第21号 (2121 NYATOH ニヤトー)

11月29日の03時にグアム島の南南西海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、30日の09時にフィリピンの東海上で台風第21号となった。台風第21号は次第に進路を北西から北に変え、12月2日には北東へ加速しながら急速に発達し、3日の03時に同海域上で最大勢力となった。4日の09時までに小笠原諸島の東北東海上で温帯低気圧に変わり、同日21時に同海域上で消滅した。

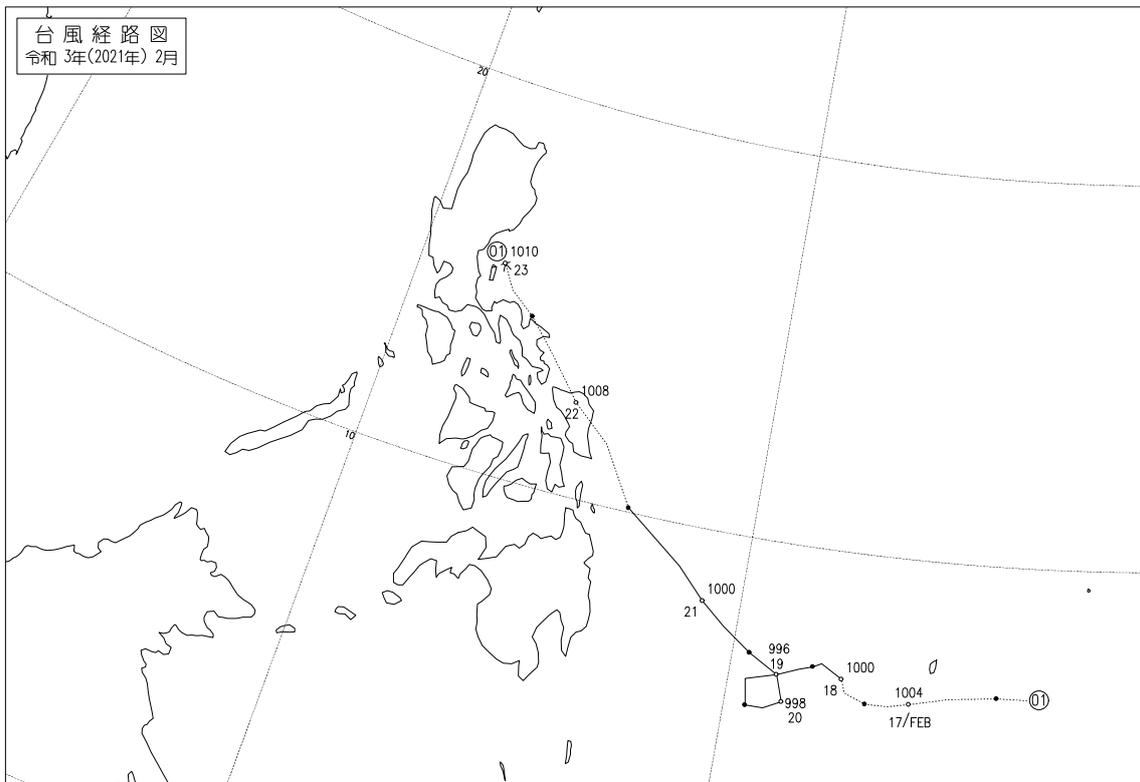
資料2-2-1 令和3年(2021年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響 (台風が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地域	月日		地域	
	始	終		始	終		
2	4/22	4/25	沖縄・奄美	4/23	4/24	沖縄地方	上陸、通過なし。
3	6/4	6/5	沖縄・奄美	6/4	6/5	沖縄地方	上陸、通過なし。
5	6/26	6/28	東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	6/26	6/27	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
6	7/17	7/25	沖縄・奄美	7/18	7/24	沖縄地方	上陸、通過なし。
8	7/26	7/28	東日本、北日本	7/26	7/28	伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、北陸地方、北日本	28日06時前、宮城県石巻市付近に上陸した。
9	8/6	8/9	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方	8/7	8/9	沖縄・奄美、西日本、東海地方、北陸地方	8日20時過ぎ、鹿児島県枕崎市付近に上陸した。 9日05時過ぎ、広島県呉市付近に再上陸した。
10	8/5	8/9	沖縄・奄美、九州南部、四国地方、近畿地方、東日本、東北地方	8/5	8/8	沖縄・奄美、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	上陸、通過なし。
11	8/4	8/4	伊豆諸島、小笠原諸島				上陸、通過なし。
12	8/21	8/24	沖縄・奄美、西日本、北陸地方	8/21	8/24	沖縄地方、九州北部地方、中国地方	上陸、通過なし。
14	9/11	9/18	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	9/11	9/18	沖縄地方、西日本、東日本	17日19時前、福岡県福津市付近に上陸した。 18日00時過ぎ、愛媛県松山市付近に再上陸した。 18日06時過ぎ、和歌山県有田市付近に再上陸した。
16	9/29	10/2	沖縄地方、近畿地方、東日本、東北地方	10/1	10/1	伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	上陸、通過なし。
20	10/28	10/29	伊豆諸島、小笠原諸島	10/28	10/29	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
21	12/3	12/4	伊豆諸島、小笠原諸島	12/3	12/4	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。

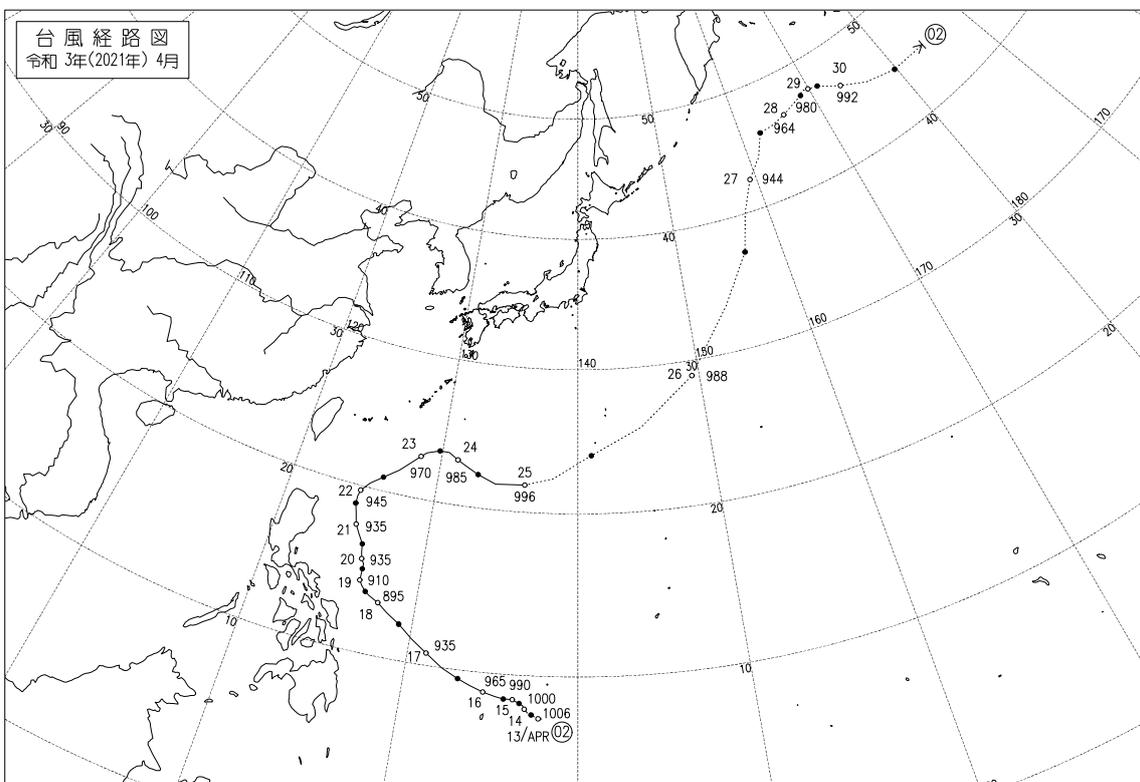
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

資料 2-2-2 令和 3 年(2021 年)に発生した台風の経路図 (月別)

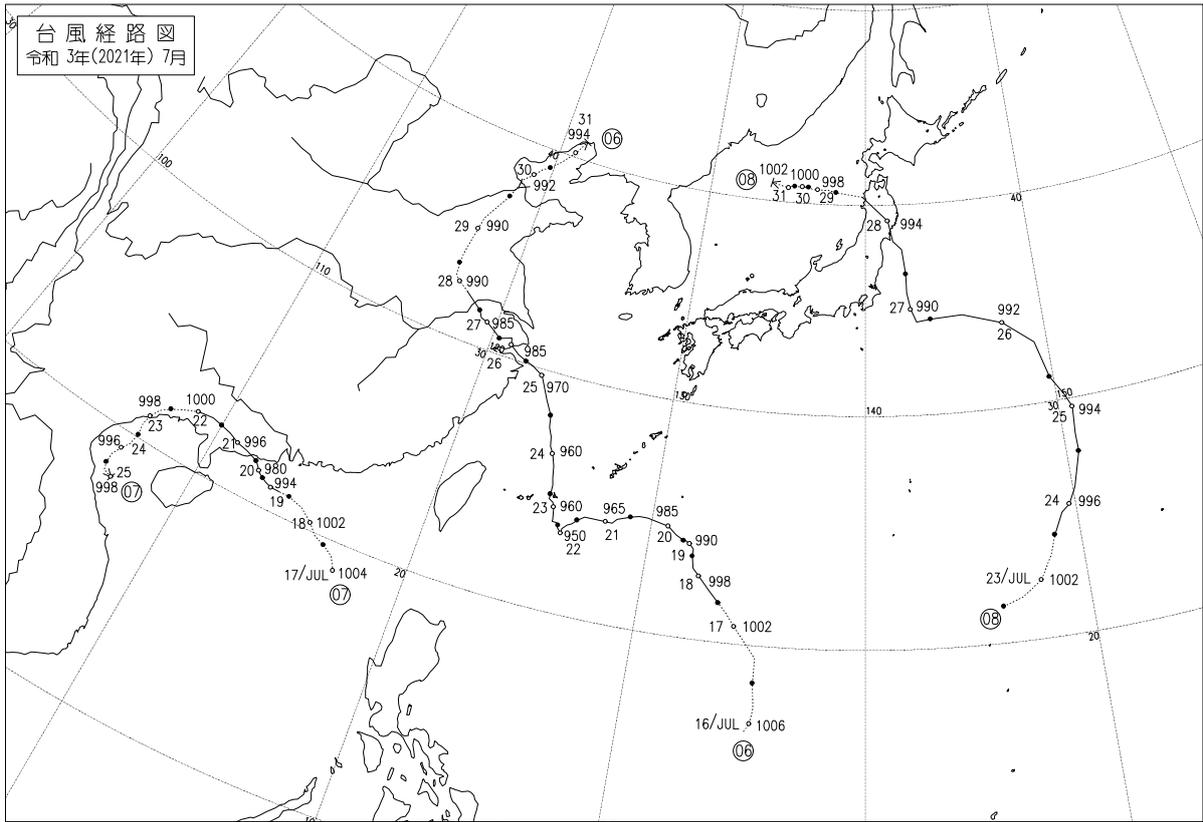
※ 1 月及び 3 月は台風の発生がなかったため掲載していない。



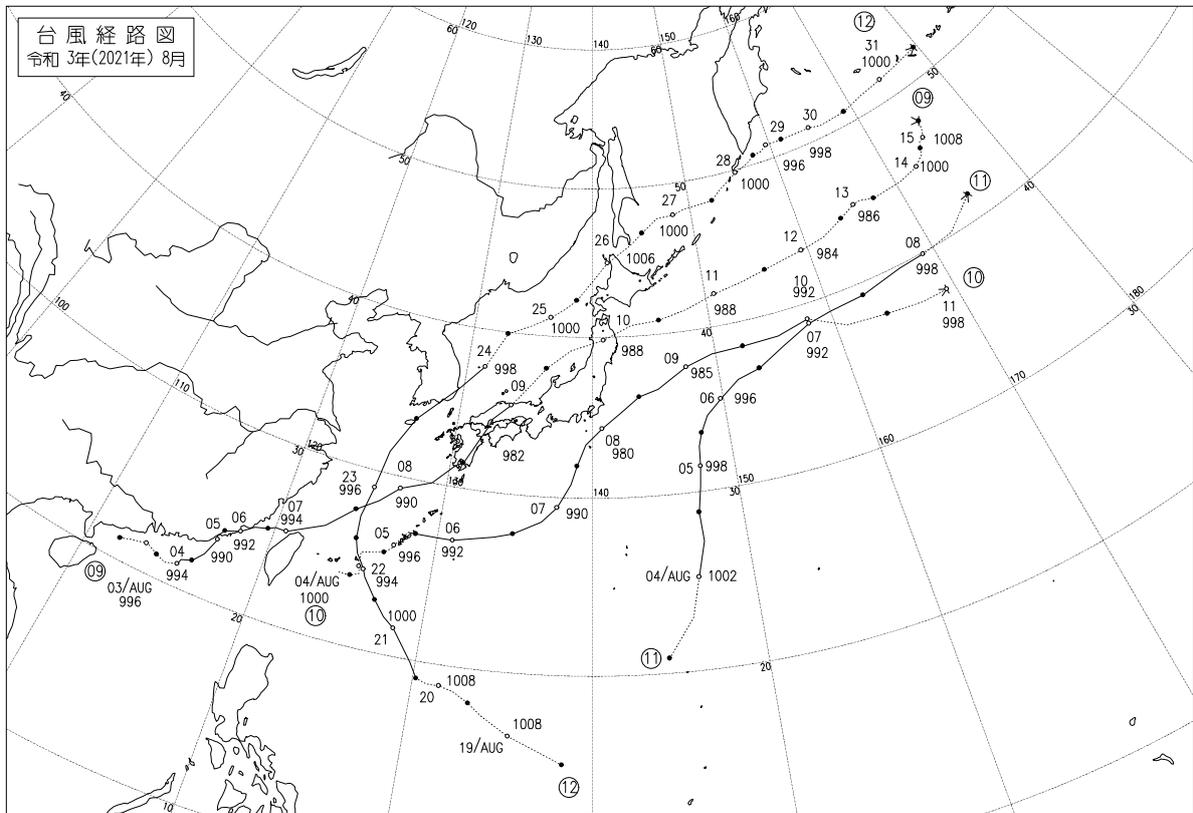
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



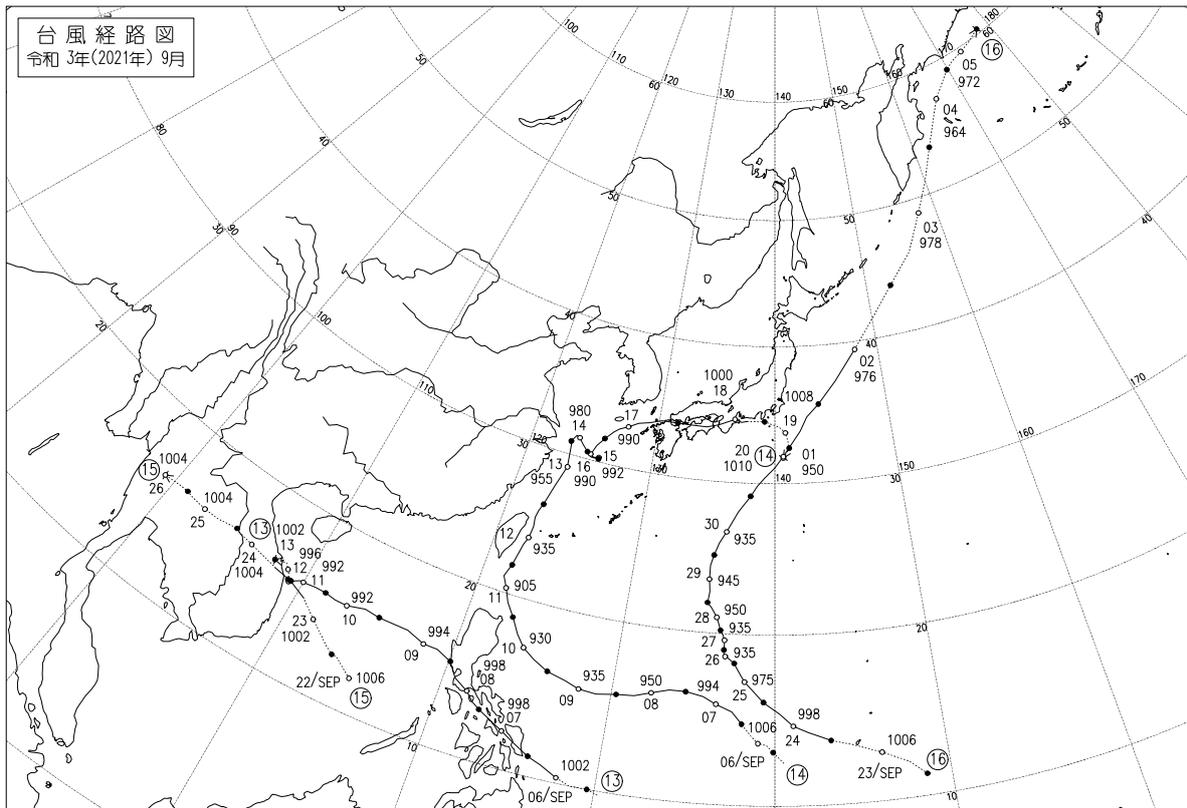
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



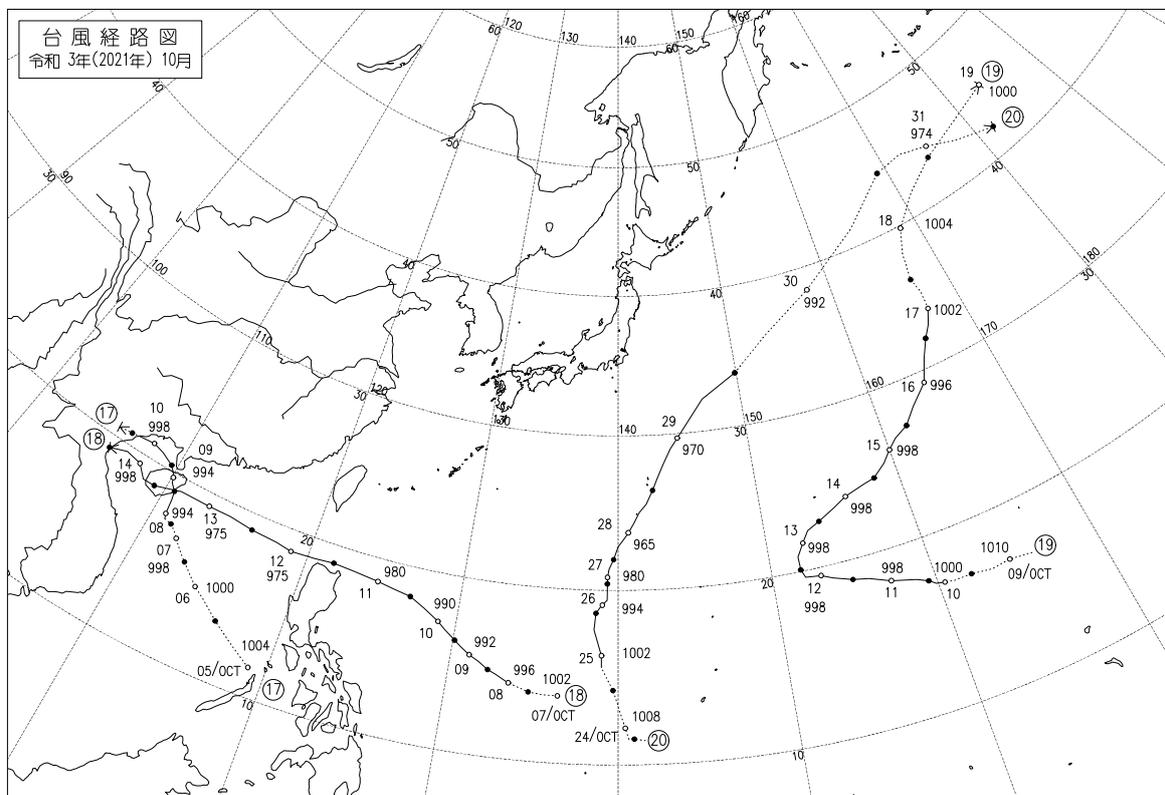
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



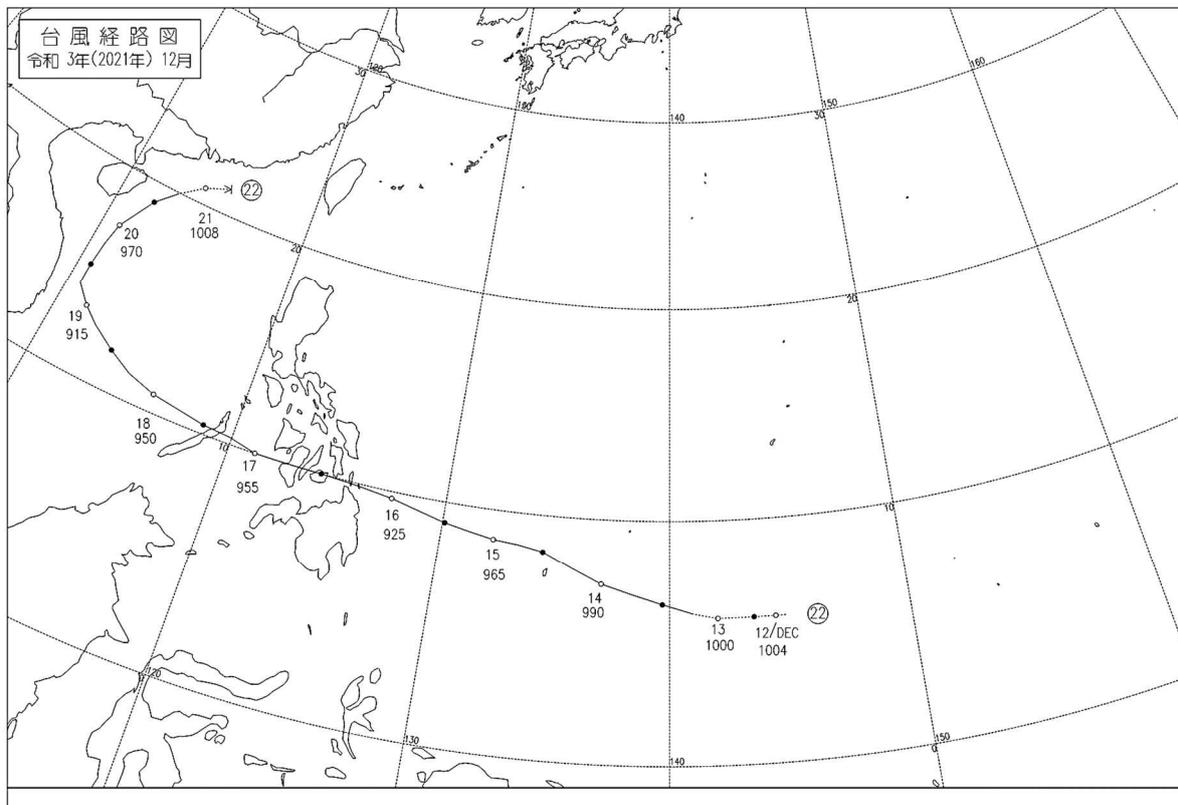
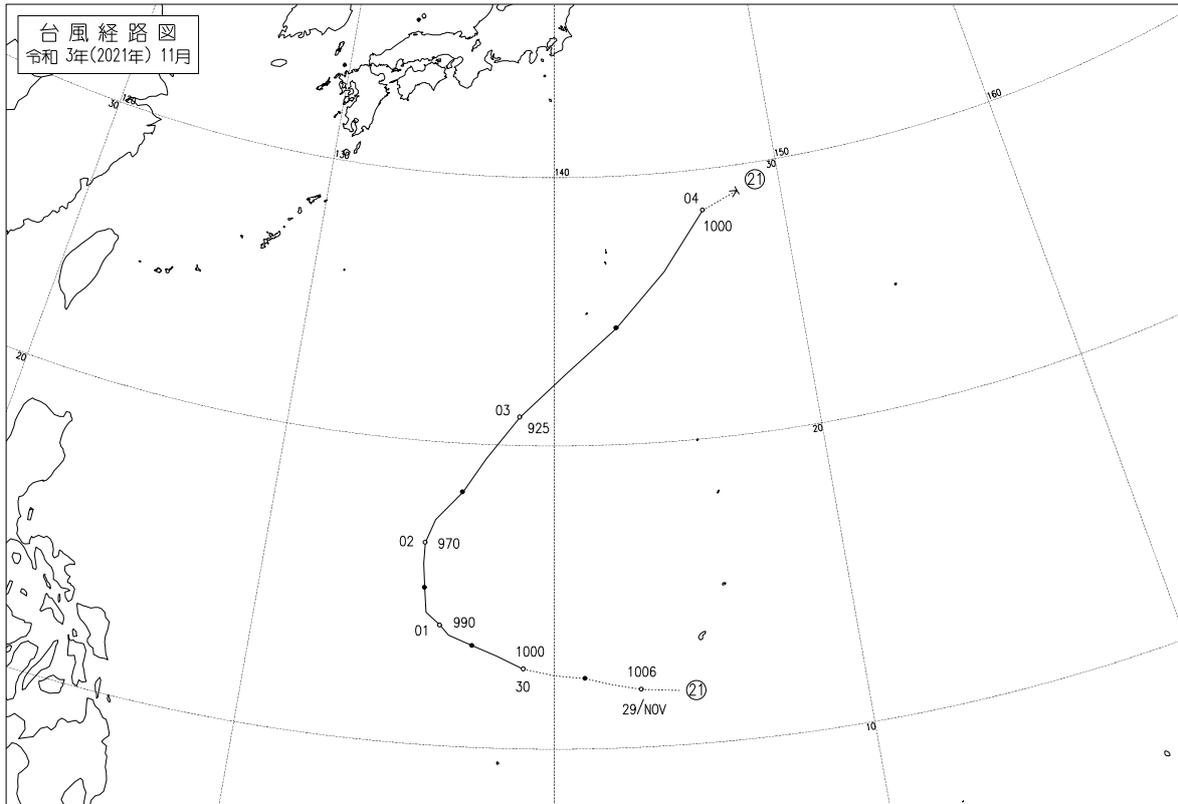
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消散を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消散を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



3 令和3年（2021年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置により、九州地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨、その後大陸の高気圧が張り出し西日本を中心に晴れ(1～4日)

1日から2日は、強い冬型の気圧配置が持続し、九州地方から北海道にかけての日本海側では広く雪や雨となった。一方、西日本や東日本の太平洋側では晴れとなったところがあった。また、北陸地方では雷となったところがあった。3日から4日は、寒気の影響により日本海側を中心に雪や雨となった。大陸の高気圧が徐々に東へ張り出し、西日本や東日本では晴れとなったところが多かった。

日本海に発生した低気圧の影響で日本海側を中心に雨や雪、全国的に強風、北陸地方をはじめ一部の地域で暴風、沖縄付近の低気圧の影響で沖縄から九州南部でも雨(5～7日)

5日は、日本海に発生し、東へ進んだ低気圧の影響や寒気の影響により、北陸地方の日本海側や北日本では広い範囲で雪や雨となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。一方、その他の地域では、沖縄付近で発生し日本の南を東へ進んだ低気圧の影響により、おおむね曇りで、沖縄から九州南部では雨となった。6日は、日本海に発生した低気圧や、寒気の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となった。7日は、日本海の低気圧が発達しながら北日本を通過し、寒冷前線が本州を通過した。その影響により、西日本や、東日本の日本海側、北日本では広く雨や雪となった。北陸では雷となったところがあったほか、全国的に強風となり、北陸地方、伊豆諸島および東北地方では暴風となったところがあった。

冬型や低気圧の影響により、日本海側で雪や雨、北陸地方では大雪(8～10日)

8日から10日は、冬型や北海道付近に発生した低気圧の影響により、九州地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨となった。北陸地方では大雪や、雷となったところがあったほか、北海道では強風となったところがあった。一方、西日本から東北地方にかけての太平洋側では晴れた。

南岸低気圧や、日本海に発生した低気圧の影響で広い範囲で雨や雪、その後再び日本海に低気圧が発生し、北日本を中心に雪や雨、東北地方や北海道では強風(11～14日)

11日は、移動性高気圧が西日本を通過し、冬型が緩んだが、中国地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨となった。移動性高気圧の通過後、低気圧が九州付近に発生し、沖縄・奄美や九州南部では雨となった。12日は、日本の南を北東に進んだ低気圧の影響や、日本海を東へ進んだ低気圧の影響により、西日本から北日本にかけて、太平洋側を含めた広い範囲で雨や雪となった。13日から14日は、日本海に発生した低気圧が、北海道付近を通過した影響で北陸地方や北日本では雪や雨となり、東北地方と北海道では強風となったところがあった。一方、西日本や東日本は次第に高気圧に覆われ、晴れとなったところが多かった。

低気圧が北海道付近を通過し、そこからのびる前線が本州を通過した影響で西日本から北日本では雨や雪、北海道では暴風(15～17日)

15日は、寒気の影響で、北海道では雪となったところがあった。また、気圧の谷の影響で関東地方では雨となったところがあった。その他の地域では、高気圧に覆われおおむね晴れとなった。16日は、日本海の低気圧が北東に進み北海道付近を通過し、低気圧からのびる寒冷前線が本州を通過した。この影響で、西日本から北日本にかけては、太平洋側の一部の地域を除き、雨や雪となったところが多かった。中国地方では雷、北海道では暴風となったところがあった。17日は、低気圧や寒気の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側で雪や雨となった。

低気圧と冬型の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨、伊豆諸島と北陸地方では暴風、その後移動性高気圧に覆われ西日本や東日本で晴れ、沖縄では前線の影響で雨(18～21日)

18日は、日本海に発生した低気圧が北日本を通過した影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪となった。中国地方や北陸地方では雷となったところがあったほか、伊豆諸島や北陸地方では強風となったところがあった。19日は、低気圧が日本の東へ抜け冬型となり、中国地方や北陸地方の日本海側や北日本では、雪や雨となった。東北地方と北海道では強風、伊豆諸島と北陸地方では暴風となったところがあった。一方、西日本や東日本では太平洋側を中心に晴れとなったところがあった。20日から21日は、移動性高気圧

に覆われ、西日本や東日本ではおおむね晴れとなった。一方、北陸地方から北海道の日本海側では、寒気や気圧の谷の影響により、雪となったところがあった。また、沖縄地方では、停滞前線の影響で雨となった。

本州の南にのびる前線や、日本の南を進んだ低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて広い範囲で雨、沖縄では大雨、伊豆諸島では暴風、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ(22～25日)

22日は、大陸から本州付近にのびる前線や気圧の谷の影響で、西日本と東日本の日本海側では雨となったところがあった。また、沖縄付近にのびる前線の影響により、南西諸島では雨となった。23日は、本州の南にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて広く雨となり、沖縄では大雨となったところがあった。一方、高気圧に覆われ、北日本では晴れとなったところがあった。24日は、日本の南を東へ進んだ低気圧の影響により、西日本や東日本では広く雨となったほか、伊豆諸島では暴風となったところがあった。25日は、気圧の谷の影響で関東地方では雨が降ったが、その後は高気圧に覆われて全国的に晴れた。

本州の南岸を進んだ低気圧と北日本付近の低気圧の影響により全国的に雨、北海道で強風(26～27日)

26日は、東シナ海に発生した低気圧が東へ進んだ影響で、西日本や東海地方、北陸地方で雨となった。27日は、本州の南岸を東へ進んだ低気圧と、北日本付近を通過する低気圧の影響で、全国的に雨となり、特に北日本では雪となったところがあったほか、北海道では強風となったところがあった。

北日本に接近した低気圧やその後の冬型により、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨、北陸地方をはじめ一部の地域で暴風(28～31日)

28日は、日本海を東へ進んだ低気圧の影響で、中国地方から北陸地方の日本海側を中心に雨や雪となったほか、中国地方、四国地方では強風、北陸地方では雷となったところがあった。また、伊豆諸島付近の低気圧の影響で、東海地方では雨、関東地方では雨や雪となった。29日は、日本海の低気圧が北日本に接近した影響で、中国地方から北陸地方の日本海側や、北日本では、雪や雨となったほか、北陸地方では雷となり、北陸地方、伊豆諸島及び北海道では暴風となったところがあった。また、西日本や東日本の太平洋側ではおおむね晴れとなった。30日から31日は、冬型により、中国地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨となったほか、北陸では雷となり、北陸地方や北海道では暴風となったところがあった。一方、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側ではおおむね晴れとなった。

2月

低気圧や冬型の気圧配置により全国的に雨、日本海側を中心に雪、四国地方や東海地方で暴風(1～3日)

1日から2日は、本州を通過した低気圧や前線、及びその後の冬型の気圧配置(以下、冬型)の影響により、全国的に雨となり東日本や北日本の日本海側では雪となったところがあった。北陸地方では雷、東日本や北日本では強風となったところがあったほか、四国地方や東海地方では暴風となったところがあった。3日は、冬型により、中国地方から北海道にかけての日本海側で雪となり、北海道では強風となったところがあった。一方、西日本や東日本の太平洋側では晴れとなった。

低気圧が北日本を通過し、日本海側で雪や雨、東日本では一部で暴風、その後高気圧に覆われるが、北日本を通過する低気圧や本州南岸にのびる前線の影響で、西日本の太平洋側で雨、北日本で雨や雪(4～6日)

4日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、九州から北日本にかけての日本海側では雪や雨となった。北陸地方では雷、北陸地方や伊豆諸島では暴風となったところがあった。一方、関東地方では晴れたところが多かった。5日は、九州付近に中心を持つ高気圧に覆われ、西日本や東日本ではおおむね晴れとなった。一方、北陸地方や北日本では寒気の影響で雪となったところがあった。また、東シナ海にのびる前線が、九州に接近し、九州では一部雨となったところがあった。6日は、本州の南岸にのびる前線の影響により、西日本の太平洋側では雨となったところがあった。また、前線を伴った低気圧が通過した影響で、北日本では雨や雪となったところがあった。それ以外の地域はおおむね晴れた。

前線や冬型により、日本海側を中心に雪や雨、その他の地域では晴れ(7～9日)

7日から9日は、北日本を通過した前線や、その後の冬型の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨となり、中国地方や北陸地方では雷となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。

沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で雨、寒気の影響で日本海側では一部で雪や雨、その後高気圧に覆われ東日本や北日本で晴れ、沖縄・奄美や西日本では湿った空気の影響で雨(10～13日)

10日から11日は、沖縄に接近する低気圧や前線の影響により、沖縄・奄美では雨となり、強風や大雨となったところがあった。また、北陸地方から北海道にかけての日本海側では寒気の影響で雪や雨となり、北陸地方では雷となったところがあった。それ以外の地域ではおおむね晴れた。12日は、日本の南の低気圧や前線の影響により、沖縄・奄美や九州南部では雨となり、沖縄・奄美では強風となったところがあったが、北日本付近に中心を持つ高気圧の影響で北日本では晴れた。13日は、高気圧に覆われ東日本や北日本で晴れとなったが、沖縄・奄美や西日本の太平洋側では、湿った空気の影響で雨となったところがあった。

低気圧が発達しながら本州付近を通過し全国的に雨や強風、一部の地域で大雨や暴風、低気圧が北海道付近に停滞し日本海側を中心に雪や雨、北陸地方では大雪、全国的に強風、一部の地域で暴風、その後移動性高気圧により太平洋側の一部の地域で晴れ(14～19日)

14日は、日本海や九州付近に発生した低気圧の影響により西日本で雨となり、四国地方では大雨となったところがあったが、日本の東に中心を持つ高気圧の影響で、東日本や北日本では晴れたところが多かった。15日は、日本海および本州南岸の低気圧がそれぞれ発達しながら北東に進んだ影響で、全国的に雨となり、東海地方では大雨となったところがあったほか、西日本や東日本では強風や雷となったところがあった。また、北陸地方や伊豆諸島では暴風となったところがあった。16日から17日は、北海道付近に停滞する発達した低気圧の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となり、北陸地方では雷や大雪となったところがあったほか、全国的に強風となり、西日本から北日本では暴風となったところがあった。18日は、低気圧は次第に北海道から離れつつも、冬型の影響により、日本海側を中心に雪や雨となり、北海道で強風、九州南部では暴風となったところがあった。19日は、移動性高気圧により、西日本や東日本では太平洋側を中心に晴れたところが多かった。一方、寒気の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨となった。

北海道付近を通過する前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方や北日本で雨や雪、四国地方や東海地方で暴風、高気圧に覆われ沖縄・奄美から東日本で晴れ(20～21日)

20日は、北海道付近を通過した前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方や北日本では雨や雪となったほか、雷となったところがあった。また、伊豆諸島や北海道では強風、四国地方や東海地方では暴風となったところがあった。沖縄・奄美から東日本は、高気圧の影響でおおむね晴れた。21日は、寒気の影響で北陸地方や北日本では雪や雨となったところがあったほか、北海道では強風となったところがあったが、沖縄・奄美から東日本は、日本の南の高気圧の影響でおおむね晴れた。

北日本を通過した低気圧とその後の冬型の影響で、日本海側を中心に雨や雪、北海道では大雪、西日本や東日本の太平洋側を中心に晴れ(22～24日)

22日は、日本海に発生した低気圧が北日本を通過した影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨や雪となり、中国地方や北陸地方では雷となったところがあった。一方、西日本や東日本ではおおむね晴れた。23日は、冬型の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨や雪となった。北陸地方では雷となったところがあったほか、関東地方、東北地方および北海道では強風となったところがあった。一方、西日本や東日本では太平洋側を中心に晴れとなった。24日は、冬型の影響により、北陸地方や北日本では雪や雨となり、北海道では大雪となったところがあった。それ以外の地域ではおおむね晴れた。

高気圧に覆われ東日本や北日本でおおむね晴れ、前線や低気圧の影響で沖縄・奄美や西日本を中心に雨、九州では大雨、暴風(25～28日)

25日は、高気圧に覆われ、東日本や北日本ではおおむね晴れとなったが、北日本の日本海側では寒気の影響で雪となったところがあった。また、東シナ海の前線が接近する影響で、沖縄・奄美や西日本では雨となったところがあった。26日は、前線を伴った低気圧が南西諸島付近を東へ進んだ影響により、沖縄・奄美や西日本を中心に雨となった。沖縄地方では雷、九州では大雨や暴風となったところがあった。北陸地方や北日本では、寒気の影響で雪となったところがあった。27日から28日は、高気圧に覆われ、東日本や北日本を中心に晴れたところが多かったが、沖縄・奄美や西日本の太平洋側では低気圧の影響や湿った空気の影響で雨となったほか、北日本では寒気の影響により、雪となったところがあった。また、九州や北海道では強風となったところがあった。

3月

前線を伴った低気圧の通過に伴い全国的に雨、北日本を中心に一部で雪、その後移動性高気圧に覆われ全国的に晴れ、低気圧が接近し、沖縄・奄美や西日本を中心に雨(1～4日)

1日は、気圧の谷の影響で、北日本では雨や雪となったところがあった。また、前線を伴った低気圧が接近し、西日本や東日本では太平洋側を中心に雨となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。2日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過し、全国的に雨となり、北陸地方や北日本では、雪となったところがあった。3日は、北陸地方や北日本は寒気の影響で雪や雨となったところがあったが、その他の地域は次第に移動性高気圧に覆われ晴れた。4日は、高気圧に覆われ東日本や北日本ではおおむね晴れた。一方、東シナ海に発生した低気圧が接近した影響で沖縄・奄美や西日本を中心に雨となった。

前線や本州南岸の低気圧により沖縄・奄美から東日本で雨、九州北部地方では一部で大雨、前線や寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雨や雪、その後別の低気圧の影響で、西日本や東日本では太平洋側を中心に雨(5～8日)

5日は、九州付近の低気圧の影響で、西日本や東日本で雨となり、九州北部地方では雷、四国地方では大雨となったところがあった。また、寒冷前線の影響で、北日本は日本海側を中心に雨となった。6日は、前線や寒気の影響で、北陸地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となった。また、東シナ海の前線や本州南岸の低気圧の影響で、沖縄・奄美や近畿地方から関東甲信地方では雨となったところがあった。7日は、沖縄の南の前線や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。8日は、日本の南の低気圧の影響で西日本や東日本では太平洋側を中心に雨となり、北海道では気圧の谷の影響で雪や雨となったところがあった。

高気圧に覆われ北日本を中心に晴れ、低気圧の影響で北陸地方や北日本で雪や雨、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ(9～11日)

9日は、高気圧に覆われて北陸地方や北日本では晴れた。一方、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側では雨となったところがあった。10日は、前線を伴った低気圧が北海道付近を通過し、北陸地方や北日本では雪や雨となり、北海道では強風となったところがあった。一方、沖縄・奄美から東日本は、高気圧に覆われおおむね晴れた。11日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたが、北海道では気圧の谷の影響で雨となったところがあった。

低気圧の通過に伴い全国的に雨、一部の地域で大雨、その後寒気の影響で北日本を中心に雪や雨、その他の地域は高気圧に覆われ晴れ(12～15日)

12日から13日は、前線を伴った低気圧の通過に伴い、沖縄・奄美から東北地方を中心に雨となり、西日本や東日本では雷、東海地方、関東地方では大雨となったところがあった。北海道は高気圧に覆われて晴れた。14日は、前線を伴った低気圧が三陸沖を北東に進み、北陸地方や北日本では雨や雪となり、東北地方では大雨となったところがあった。その他の地域ではおおむね晴れた。15日は、寒気の影響で、北日本や北陸地方で雪や雨となったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で日本海側を中心に雨、その後前線が南下し西日本の一部で雨、低気圧や寒気の影響で北日本を中心に一部で雨や雪、東シナ海の前線により、奄美地方から九州南部で雨(16～19日)

16日は、日本海の低気圧や大陸からのびる前線の影響で、日本海側を中心に雨となった。一方、日本の南の高気圧に覆われて、沖縄や関東地方ではおおむね晴れた。17日は、本州南岸に停滞する前線の影響で、西日本で雨となったところがあった。また低気圧や寒気の影響で、北陸地方や北日本では雨や雪となったところがあったほか、東北地方では強風となったところがあった。その他の地域はおおむね晴れた。18日から19日は、寒気や気圧の谷の影響で、北日本の日本海側では雪や雨となったところがあった。また東シナ海の前線の影響で、奄美地方や九州南部では雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線を伴った低気圧が日本海から北日本に進み全国的に雨、一部の地域で大雨、その後冬型の気圧配置となり日本海側を中心に雨や雪(20～22日)

20日は、高気圧に覆われ北日本を中心に晴れたが、次第に低気圧や前線が西日本に接近し、西日本から東

北地方では雨となったところが多かった。21日は、前線を伴った低気圧が北日本付近へ進み、全国的に雨となり、北海道では雪となったところがあった。また、近畿地方、東海地方、関東甲信地方では大雨となったところがあった。22日は、北海道付近の低気圧がオホーツク海へ進み、冬型の気圧配置となり、西日本から北日本では日本海側を中心に雨や雪となった。関東地方は湿った空気の影響で雨となった。

高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、その後低気圧の影響で沖縄・奄美や西日本の太平洋側を中心に雨(23～25日)

23日は、東シナ海を東へ移動する高気圧に覆われ、全国的に晴れたが、北陸地方や北日本の日本海側では、寒気の影響で雨となったところがあった。24日は、日本の東の高気圧に覆われ、全国的に晴れたが、東シナ海の低気圧の影響で、沖縄地方から九州南部では雨となった。25日は、日本の南を東へ進む低気圧や、日本海の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側、北日本の日本海側を中心に雨となった。一方、黄海付近の高気圧に覆われ、九州北部地方や中国地方の日本海側を中心に晴れた。

高気圧に覆われおおむね晴れ、日本海と日本の南岸を進む前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、一部の地域で大雨(26～29日)

26日は、低気圧の影響で北陸地方や北日本では雨や雪となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ晴れた。27日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたが、黄海を東北東に進む低気圧の接近により、夜には沖縄地方から四国地方で雨となったところがあった。28日は、日本海と日本の南岸を進む、前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨となり、沖縄・奄美で雷となったところがあったほか、九州南部から四国地方、東海地方では大雨となったところがあった。29日は、関東の東を北東へ進む低気圧の影響で、東日本や北日本では雨となったが、その後は西日本や東日本を中心に晴れ、関東地方では強風、北海道では雷となったところがあった。

前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて一部で雨、奄美地方では一部で大雨(30～31日)

30日は、関東付近を通過する低気圧や沖縄付近の前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となったところがあり、関東地方では雷、奄美地方では大雨となったところがあった。31日は、日本の東の低気圧の影響で、関東地方や東北地方で雨となったところがあったほか、関東地方では雷となったところがあった。また、沖縄付近にのびる前線の影響で、沖縄地方では雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

4月

高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、前線や低気圧などの影響で太平洋側や北海道を中心に雨、一部の地域で大雨(1～3日)

1日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、東シナ海の前線の影響で、沖縄地方から九州南部では雨となった。2日は、高気圧に覆われ日本海側や北日本を中心に晴れたが、東シナ海の前線や低気圧、湿った空気の影響で、沖縄地方から関東地方では太平洋側を中心に雨となったところがあり、沖縄・奄美や小笠原諸島では大雨となったところがあった。3日は、低気圧や湿った空気の影響で、沖縄地方から関東地方では太平洋側を中心に雨となったところがあり、九州南部では大雨となったほか、北海道では寒冷前線の影響で日本海側を中心に雨となった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、次第に高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、湿った空気や気圧の谷の影響により一部の地域で雨、上空の寒気の影響により北日本日本海側では一部で雨や雪(4～11日)

4日から5日は、前線を伴った日本海の低気圧が北日本を通過し、全国的に雨となり、近畿地方や東海地方では雷となったところがあったが、次第に高気圧に覆われ、西日本や北海道では晴れた。6日から7日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、湿った空気や気圧の谷の影響で西日本や東日本の太平洋側を中心に雨となったところがあったほか、上空の寒気の影響で北日本日本海側では雨や雪となったところがあった。8日から9日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、低気圧や上空の寒気の影響で関東地方や北陸地方では雨、北日本の日本海側では雨や雪となったところがあり、関東地方や東北地方では雷となったところがあった。10日から11日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、湿った空気や上空の寒気の影響で南西諸島、関東地方

の太平洋側、北日本では雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧が日本付近を通過し、全国的に雨、その後高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、前線や湿った空気の影響で、南西諸島から東海地方にかけて雨(12～16日)

12日は、高気圧の中心が日本の東を東へ移動し、一方で前線が東シナ海を東へ進んだ。これらの影響により、東日本から北日本を中心に晴れたが、西日本では雨となった。13日は、本州の南岸の低気圧、日本海の低気圧、沿海州付近の低気圧の影響で、全国的に雨となり、北海道では強風となったところがあった。14日は、本州の南岸を東へ進む低気圧や、オホーツク海の低気圧からのびる前線の影響で、中国地方から北海道にかけて雨となった。15日は、移動性高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、上空の寒気の影響により北日本の日本海側では雨や雪となったところがあった。また、南西諸島では湿った空気の影響で雨となった。16日は、高気圧が日本の東を東へ移動し、北日本を中心に晴れたが、湿った空気や東シナ海の前線の影響で沖縄・奄美から東海地方にかけて雨となった。

本州南岸を進んだ低気圧と日本海の低気圧の影響で全国的に雨、一部の地域で大雨、北陸地方では一部で暴風、その後高気圧に覆われ西日本から東日本を中心に晴れ、低気圧の影響で北日本を中心に雨、北海道では一部で暴風(17～20日)

17日は、前線を伴った低気圧が本州の南岸を東へ進み、別の低気圧が日本海を東へ進んだ。これらの影響により全国的に雨となり、近畿地方、東海地方、関東地方では大雨となったところがあったほか、四国地方、中国地方、北陸地方では雷となったところがあった。18日は、低気圧が日本海と三陸沖をそれぞれ進み、西日本から北日本では雨となり、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方では雷となったところがあったほか、北陸地方で暴風、関東地方、東北地方、北海道では強風となったところがあった。また、次第に高気圧が西から張り出し、西日本や東日本では太平洋側を中心に日中晴れた。19日から20日は、高気圧に覆われ西日本や東日本を中心に晴れたが低気圧の影響で、北日本を中心に雨となったところがあり、北海道では暴風となったところがあった。

高気圧に覆われおおむね晴れ、低気圧や気圧の谷の影響で北海道では一部で雨、台風第2号や湿った空気の影響で沖縄地方から西日本にかけての太平洋側では一部で雨(21～24日)

21日から22日は、高気圧に覆われ西日本から北日本にかけて晴れたが、低気圧の影響で北海道では雨や強風となったところがあった。また、台風第2号の影響で沖縄地方では雨となった。23日は、高気圧に覆われ東日本から北日本を中心に晴れたが、台風第2号や湿った空気の影響で、沖縄地方や西日本の太平洋側では雨となったところがあった。また沖縄地方では強風となったところがあった。24日は、高気圧に覆われ西日本から北日本では晴れたところが多かったが、北海道では気圧の谷の影響で雨となったところがあったほか、沖縄・奄美や九州南部では台風第2号や湿った空気の影響で雨となったところがあった。

高気圧に覆われおおむね晴れ、上空の寒気の影響により東日本では一部で雨、北日本では一部で雨や雪、東シナ海の前線が接近し、西日本では一部で雨(25～27日)

25日は、高気圧に覆われ西日本を中心に晴れたが、上空の寒気の影響により、東日本では雨、北日本では雨や雪となったところがあった。26日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたが、北日本では上空の寒気の影響により雨や雪となったところがあった。27日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、東シナ海の前線が接近し、九州や中国地方では雨となったところがあった。

本州付近を北東へ進んだ低気圧の影響で全国的に雨、東海地方では一部で大雨や暴風、近畿地方では一部で大雨、その後高気圧に覆われ太平洋側では晴れ(28～30日)

28日は、日本の東の高気圧に覆われ東日本から北日本にかけての太平洋側では晴れたが、前線が東シナ海から西日本へのび、西日本と東日本から北日本の日本海側を中心に雨となった。29日は、前線を伴った低気圧が本州付近を北東へ進み、全国的に雨となった。東海地方では大雨や暴風、近畿地方では大雨となったところがあった。30日は、日本海の低気圧、前線を伴った北海道付近の低気圧や上空の寒気の影響により、西日本の日本海側と東日本から北日本を中心に雨となった。九州北部地方、北陸地方、関東地方では雷、中国地方、関東地方、東北地方、北海道では強風となったところがあった。また、太平洋側は高気圧の影響で晴れたところが多かった。

5月

前線を伴った低気圧や上空の寒気の影響で西日本から北日本にかけて雨、東海地方では一部で暴風、その後次第に高気圧に覆われ晴れ(1~4日)

1日から2日は、前線を伴った低気圧と上空の寒気の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、四国地方、伊豆諸島では強風、東海地方では暴風となったところがあったほか、西日本から北日本では雷となったところがあった。一方、沖縄・奄美では高気圧に覆われ晴れた。3日は、寒気の影響により、北陸地方や北日本では雨や雪となり、東北地方では強風となったところがあった。一方、高気圧に覆われその他の地域はおおむね晴れた。4日は、高気圧に覆われ、東日本から北日本ではおおむね晴れたが、北海道では寒気の影響により雨となったところがあった。また、黄海を進む低気圧の影響により九州では雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、一部の地域で大雨、その後高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、日本の南に前線が停滞し、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、奄美地方では一部で大雨(5~7日)

5日は、前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨となり、九州北部地方、四国地方、東海地方では大雨となったところがあったほか、北海道では強風となったところがあった。6日は、前線や低気圧の影響により、南西諸島で雨となり、東日本でも午前中雨となったほか、北海道では強風となったところがあったが、次第に高気圧に覆われほぼ全国的に晴れた。7日は、日本の南に前線が停滞し、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、奄美地方では大雨となったところがあった。一方、北海道では高気圧に覆われ晴れた。

日本の南の前線の影響により、沖縄・奄美や九州南部を中心に雨、低気圧や気圧の谷などの影響により、北日本などでも雨(8~11日)

8日は、日本の南の前線や気圧の谷の影響により、沖縄・奄美から東日本の太平洋側、北陸地方や北日本の日本海側を中心に雨となったところがあった。また、沖縄・奄美では雷となったところがあった。9日は、日本の南に停滞した前線や、沿海州付近の低気圧の影響で、沖縄・奄美、北陸地方、北日本では雨となり、沖縄地方、北日本では雷となったところがあったがその他の地域は晴れた。10日から11日は、日本の南に停滞した前線の影響で沖縄・奄美や九州南部では雨となり、雷となったところがあった。また、低気圧や湿った空気の影響で、中国地方や北陸地方、北日本を中心に雨となり、東北地方では雷となったところがあった。

日本の南に停滞した前線上の低気圧が本州の南岸を進み西日本や東日本で雨、一部の地域で大雨、その後高気圧に覆われ東日本や北日本で晴れ、前線を伴った低気圧が日本海を進み全国的に雨、一部の地域で大雨(12~17日)

12日は、日本の南に停滞した前線上の低気圧が九州付近を通過し、西日本や東海地方を中心に雨となり、九州南部では大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ晴れた。13日は、日本の南に停滞した前線上の低気圧が伊豆諸島付近を通過し、西日本や東日本では雨となり、伊豆諸島では大雨となったところがあった。東北地方では、高気圧に覆われおおむね晴れた。14日は、日本の南に停滞した前線や気圧の谷の影響で、奄美地方や九州南部、北日本で雨となり、北海道では雷となったところがあったが、高気圧に覆われ東日本を中心に晴れた。15日は、前線が九州付近まで北上し西日本では雨となり、九州では大雨や雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。16日から17日は、前線を伴った低気圧が日本海を進み、ほぼ全国的に雨となり、九州北部地方、四国地方、北陸地方、東北地方では大雨となったところがあったほか、九州、中国地方、北陸地方では雷、関東地方では強風となったところがあった。

本州付近の前線や低気圧の影響で全国的に雨、一部の地域で大雨、その後高気圧に覆われ西日本で晴れ(18~23日)

18日から19日は、本州の南岸に停滞した前線の影響で九州から東北地方を中心に雨となったが、高気圧に覆われた北海道と沖縄地方はおおむね晴れた。20日から21日は、本州付近の前線や低気圧の影響でほぼ全国的に雨となり、西日本や東日本では大雨、西日本では雷となったところがあった。22日は、日本の東に進んだ低気圧からのびる前線の影響で全国的に雨となったところが多かった。23日は、南西諸島から日本の東に停滞した前線や日本海の低気圧の影響で、南西諸島、東日本、北日本を中心に雨となった。一方、高気圧に覆われ西日本では晴れた。

前線の影響で沖縄・奄美や西日本を中心に雨、低気圧や上空の寒気の影響で北日本などでも雨(24~26日)

24日は、日本の南の前線上の低気圧や北海道付近の低気圧の影響で、西日本や北日本を中心に雨となった。25日は、日本の南に停滞した前線の影響で沖縄・奄美で雨となった。また上空の寒気の影響で、日本海側や北日本を中心に雨となり、雷となったところがあった。26日は、前線の影響で西日本では雨となった。東日本や北日本は、高気圧に覆われおおむね晴れたが、北日本では上空の寒気の影響で雨や雷となったところがあった。

前線上の低気圧が本州の南岸を東へ進み全国的に雨、一部の地域で大雨、その後高気圧に覆われ西日本を中心に晴れ、上空の寒気などの影響により東日本や北日本、日本海側を中心に一部で雨(27~31日)

27日は、前線上の低気圧が本州の南岸を東へ進み、全国的に雨となり、西日本や東日本では大雨、九州南部では雷となったところがあった。28日は、日本の南に停滞した前線や気圧の谷の影響で、南西諸島や西日本から東日本にかけての日本海側、北日本を中心に雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。29日から30日は、西日本から東日本はおおむね晴れたが、日本の南に停滞した前線や上空の寒気、湿った空気の影響で、南西諸島や西日本日本海側と東日本、北日本では雨となったところがあり、沖縄地方、関東地方、北日本では雷となったところがあった。31日は、高気圧に覆われ、西日本から北日本にかけておおむね晴れたが、前線や上空の寒気の影響で、沖縄・奄美や関東甲信地方では雨となり、関東甲信地方では雷となったところがあった。

6月

高気圧に覆われ西日本から北日本で晴れ、その後前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、一部で大雨、日本の南の前線や台風第3号の影響で沖縄・奄美や九州南部で雨、沖縄・奄美では一部で大雨(1~5日)

1日は、はじめ上空の寒気の影響で関東地方では雨や雷となったところがあったが、日中は高気圧に覆われ西日本から北日本ではおおむね晴れた。2日は、高気圧に覆われ北陸地方や北日本を中心に晴れたが、東シナ海の前線の影響で、沖縄・奄美や九州南部では雨となったところがあった。3日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から日本海へ進み、西日本を中心に雨となり、九州では大雨となったところがあった。一方、高気圧に覆われ北日本を中心におおむね晴れた。4日は、前線を伴った低気圧が本州を通過し、全国的に雨となり、九州南部、東海地方、北日本では大雨となったところがあったほか、北海道では強風となったところがあった。5日は、日本の南の前線や台風第3号の影響で、沖縄・奄美や九州南部を中心に雨となり、沖縄・奄美では大雨や雷となったところがあった。一方、高気圧に覆われ北日本を中心に晴れた。

日本の南に停滞した前線の影響で沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、一部で大雨、上空の寒気の影響で東日本、北日本では一部で雨、その後高気圧に覆われ西日本から北日本でおおむね晴れ(6~10日)

6日は、日本の南に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側では雨となり、沖縄・奄美では大雨や雷となったところがあった。北日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、上空の寒気の影響で雨や雷となったところがあった。7日は、南西諸島から日本の東に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方では大雨や雷となったところがあった。一方、西日本から北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。8日は、日本の南に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。高気圧に覆われ西日本や東日本太平洋側では晴れたが、上空の寒気や湿った空気の影響で関東地方や北日本では雨や雷となったところがあった。9日から10日は、高気圧に覆われ西日本から北日本ではおおむね晴れたが、沖縄・奄美や九州南部では湿った空気の影響で雨となったところがあった。

前線が南西諸島や九州付近に停滞し、沖縄・奄美から東日本かけて雨、一部で大雨、上空の寒気の影響で北日本でも雨(11~15日)

11日は、高気圧に覆われ東日本や北日本では晴れたが、東シナ海の前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本では雨となり、九州北部地方では大雨となったところがあった。12日は、九州付近に停滞した前線の影響で、西日本で雨となり、九州南部では大雨となったところがあった。また、北海道では、低気圧の影響で雨となったところがあった。13日は、九州南部や奄美地方付近に停滞した前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となり、雷となったところがあったほか、九州南部では大雨となったところがあった。14日から15日は、奄美地方付近に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美では雨となり、沖縄地方では大雨や雷となったところがあった。上空の寒気の影響で西日本から北日本では雨や雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧、上空の寒気の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、一部で大雨(16～18日)

16日は、前線や前線上の低気圧、上空の寒気の影響で西日本から東北地方を中心に雨となり、東日本や東北地方では雷となったところがあったほか、九州南部では大雨となったところがあった。17日は、日本の南に停滞した前線や湿った空気の影響により、沖縄・奄美から九州で雨となったほか、上空の寒気の影響で東日本を中心に雨となった。沖縄地方では大雨や雷となったところがあったほか、東海地方、甲信地方では雷となったところがあった。北日本では高気圧に覆われおおむね晴れた。18日は、日本の南に停滞した前線や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や西日本を中心に雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。一方、高気圧に覆われ関東地方、東北地方の日本海側、北海道ではおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、一部で大雨、その後前線が南西諸島付近に停滞し、沖縄地方では一部で大雨、西日本から東北地方は高気圧に覆われおおむね晴れ(19～22日)

19日は、日本海と、西日本から東日本にかけての太平洋側沿岸を低気圧が東へ進み、沖縄・奄美から東北地方で雨となり、東海地方では大雨、沖縄地方では雷となったところがあった。20日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響で南西諸島では雨となり、雷となったところがあった。また、低気圧や湿った空気の影響により、東日本や北日本では雨となり、関東地方では雷となったところがあった。21日は、南西諸島付近に停滞した前線の影響で南西諸島では雨となり、沖縄地方では大雨や雷となったところがあった。また、低気圧の影響で北海道を中心に雨となった。一方、高気圧に覆われ西日本から東北地方ではおおむね晴れた。22日は、沖縄付近に停滞した前線の影響で沖縄地方では雨となり、大雨となったところがあった。また、上空の寒気の影響で、北陸地方や東北地方を中心に雨となり東北地方では雷となったところがあった。高気圧に覆われ、北海道は晴れた。

沖縄・奄美付近に停滞した前線や前線上の低気圧の影響により沖縄・奄美を中心に雨、一部で大雨、気圧の谷や上空の寒気の影響で、西日本から北日本でも雨(23～27日)

23日から25日は、沖縄付近に停滞した前線の影響で沖縄地方では雨となり、大雨や雷となったところがあった。また、気圧の谷や上空の寒気の影響で西日本から北日本では雨や雷となったところがあった。26日は、奄美地方付近に停滞した前線と前線上の低気圧、上空の寒気の影響により沖縄・奄美から東北地方では雨や雷となったところがあった。高気圧に覆われ、北海道では晴れた。27日は、本州南岸に停滞した前線や台風第5号の影響で、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となり、沖縄・奄美や東北地方では雷となったところがあった。高気圧に覆われ、北日本ではおおむね晴れた。

本州南岸の前線と、前線上を進む低気圧、上空の寒気の影響で、沖縄・奄美から東北地方で雨、一部で大雨(28～30日)

28日は、本州の南岸を低気圧が東へ進み、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となり、沖縄・奄美では大雨や雷となったところがあった。また、北日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、上空の寒気の影響で雨や雷となったところがあった。29日は、本州南岸の前線と前線上を北東へ進む低気圧や上空の寒気の影響で、沖縄・奄美や四国地方から東北地方を中心に雨となり、沖縄地方と関東地方では大雨となったところがあったほか、関東甲信地方では雷となったところがあった。30日は、本州南岸に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美と四国地方から東日本では雨となり、沖縄地方では大雨となったところがあった。一方、高気圧に覆われ、東北地方や北海道日本海側ではおおむね晴れた。

7月

本州付近の前線の影響で南西諸島や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、一部の地域で大雨(1～3日)

1日は、前線が本州の南を北上し、南西諸島と西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、大雨となったところがあったほか、近畿地方では雷となったところがあった。2日は、本州の南岸に停滞した前線の影響で、奄美地方と西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり大雨となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。3日は、前線が西日本から東日本に停滞し西日本や東日本では雨となり、近畿地方、東海地方、関東地方では大雨や雷となったところがあった。

前線や前線上の低気圧の影響で、西日本の日本海側、東日本、北日本で雨、南西諸島は高気圧に覆われおおむね晴れ(4～6日)

4日は、前線上の低気圧が日本海を進み、西日本の日本海側や東日本、東北地方では雨となった。一方、南西諸島は高気圧に覆われておおむね晴れた。5日は、前線が西日本から日本の東に停滞し、西日本の日本海側や東日本、北日本では雨となった。一方、南西諸島や九州南部は高気圧に覆われおおむね晴れた。6日は、日本海から日本の東に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となった。一方、南西諸島は高気圧に覆われおおむね晴れた。

日本海から日本の東に停滞した前線や上空の寒気の影響で、西日本から北日本で雨、西日本では一部で大雨(7～10日)

7日から8日は、前線が日本海から日本の東に停滞し、西日本から北日本で雨となり、西日本では大雨や雷となったところがあった。9日から10日は、日本海から日本の東に停滞した前線や前線上の低気圧、上空の寒気の影響で、西日本から北日本では雨となり、九州では大雨となったところがあったほか、西日本や東日本では雷となったところがあった。

前線や上空の寒気の影響ではほぼ全国的に雨や雷、中国地方や東北地方では一部で大雨(11～14日)

11日は、日本海から日本の東に停滞した前線や上空の寒気の影響で、西日本から北日本では雨や雷となったところがあったほか、東北地方では大雨となったところがあった。西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。12日は、山陰沖から日本の東に停滞した前線や上空の寒気の影響で、広い範囲で雨や雷となり、中国地方では大雨となったところがあった。13日は、前線や上空の寒気の影響で、西日本から北日本では雨や雷となったところがあった。14日は、前線や湿った空気、上空の寒気の影響で、沖縄・奄美から東日本では雨や雷となったところがあったほか、東北地方でも雨となったところがあった。一方、北海道は高気圧に覆われおおむね晴れた。

上空の寒気や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本で雨、一部の地域で大雨、北日本は高気圧に覆われおおむね晴れ(15～19日)

15日は、上空の寒気や湿った空気の影響で沖縄・奄美から東日本では雨となったほか、西日本や東日本では雷となったところがあった。また、北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。16日は、上空の寒気や暖かく湿った空気の影響で西日本では雨となり雷となったところがあった。また、九州南部と四国地方では大雨となったところがあった。沖縄・奄美や東日本、北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。17日は、暖かく湿った空気の影響で奄美地方や西日本で雨となり、九州では雷となったところがあった。また、九州と四国地方では大雨となったところがあった。一方、東日本や北日本は高気圧に覆われ晴れた。18日は、暖かく湿った空気の影響で沖縄・奄美から西日本を中心に雨となり雷となったところがあった。また、九州南部と四国地方では大雨となったところがあった。19日は、台風第6号や暖かく湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本太平洋側を中心に雨となり、雷となったところがあった。また、九州南部では大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

台風第6号や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本太平洋側で雨、沖縄・奄美では一部で大雨や暴風、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ、一部で雨や雷(20～25日)

20日は、台風第6号の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、沖縄・奄美では暴風や雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、日中の気温上昇や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり雨や雷となったところがあった。21日から22日は、台風第6号の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、沖縄・奄美では暴風となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、東日本や東北地方では、日中の気温上昇や湿った空気の影響により大気の状態が不安定となり雨や雷となったところがあった。23日から24日は、台風第6号や暖かく湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本太平洋側で雨となり、沖縄・奄美では暴風や大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、上空の寒気や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり雨や雷となったところがあった。25日は、台風第6号や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

台風第6号の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨、台風第8号や台風から変わった温帯低気圧の影響で、東日本や北日本で雨、一部の地域で大雨や暴風、その後上空の寒気や湿った空気の影響で西日本から北日本の一部で雨、一部で大雨(26～31日)

26日は、台風第6号に吹き込む湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。また台風第8号の影響で、関東地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となったほか、関東地方では暴風となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。27日から28日は、台風第8号が関東の東海上を北上し、宮城県に上陸したのち温帯低気圧となった。この影響により、北陸地方から東北地方では雨となり雷となったところがあった。また、東北地方では大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。29日は、上空の寒気や湿った空気の影響で近畿地方から北日本では雨や雷となったところがあったほか、北陸地方では大雨となったところがあった。また、低気圧や暖かく湿った空気の影響で小笠原では大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。30日は、上空の寒気や湿った空気の影響で、東日本や東北地方を中心に雨や雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。31日は、上空の寒気や湿った空気の影響で九州、近畿地方、東日本では雨や雷となったところがあったほか、東北地方でも太平洋側を中心に雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

8月

低気圧や前線の影響により北海道で雨、一部の地域で大雨、上空の寒気や湿った空気、熱帯低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本で雨、一部の地域で大雨(1～4日)

1日は、日本海の低気圧や前線の影響で、北日本では雨となり、北海道では大雨となったところがあったほか、上空の寒気や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本では一部で雨や雷、九州北部地方では大雨となったところがあった。2日は、低気圧や前線の影響により北海道で雨となったほか、上空の寒気や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、九州北部地方や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、九州では雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。3日は、紀伊半島付近の熱帯低気圧や湿った空気の影響で沖縄・奄美、九州、近畿地方、東海地方で雨となり、九州北部地方と近畿地方では雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。4日は、沖縄付近の熱帯低気圧や湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本の太平洋側、北日本を中心に雨となったところがあったほか、九州北部地方、甲信地方、東北地方、北海道では雷となったところがあった。それ以外の地域は高気圧に覆われ晴れた。

沖縄付近を進んだ台風第9号や日本の南を進んだ台風第10号の影響で、沖縄・奄美から東日本で雨、一部の地域で大雨(5～7日)

5日は、西日本から北日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、日中の気温上昇や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、雨や雷となったところがあった。南西諸島は台風第10号の影響で雨となり、沖縄地方では大雨となったところがあった。6日は、日本の南の台風第10号や熱帯低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨となり、雷となったところがあったほか、沖縄地方や東海地方では大雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、日中の気温上昇や湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、雨や雷となったところがあった。7日は、沖縄付近の台風第9号、日本の南を北東へ進む台風第10号及び湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となり、雷となったところがあった。

関東地方に接近した台風第10号と、鹿児島県に上陸した台風第9号及び台風から変わった温帯低気圧の影響により、全国的に雨、一部の地域で大雨や暴風(8～10日)

8日から9日は、台風第10号が関東地方に接近し、台風第9号が鹿児島県に上陸した後、温帯低気圧に変わり日本海を進んだ。これらの影響で、全国的に雨となり、雷となったところがあったほか、九州から東北地方にかけて大雨となったところがあった。また、沖縄・奄美から東日本にかけて強風、西日本と伊豆諸島では暴風となったところがあった。10日は、台風第9号から変わった温帯低気圧が東北地方を通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨となり、北陸地方と北日本では大雨となったところがあった。また、関東地方や北海道では強風、東海地方では暴風となったところがあった。

華中から東日本にかけて前線が停滞し、九州から東北地方で雨、一部の地域で大雨(11～15日)

11日は、東シナ海からのびる前線や、日本の東の低気圧の影響で、九州や北日本を中心に雨となり、九州では大雨となったところがあった。また、関東地方では雷となったところがあった。12日から14日は、前線が華中から東日本にかけて停滞し、九州から東北地方では雨となり、九州から関東甲信地方にかけて大雨や雷となった

ところがあった。15日は、停滞前線が次第に日本の南に南下し、九州から東北地方では雨となり、九州南部、東海地方、関東甲信地方では大雨となったところがあった。

前線上に発生した低気圧や前線の影響で、全国的に雨、一部の地域で大雨(16～19日)

16日から17日は、前線上の低気圧が東シナ海から日本海へ進んだ影響で、九州から東北地方にかけて雨となり、西日本と東海地方では大雨や雷となったところがあった。18日は、日本海や九州付近の低気圧及び前線の影響により全国的に雨となり、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に大雨や雷となったところがあった。19日は、前線を伴った九州付近の低気圧や北海道付近の低気圧影響で沖縄・奄美から東日本、北海道で雨となり、沖縄・奄美から東日本では雷となったところがあったほか、四国地方では大雨となったところがあった。

上空の寒気や暖かく湿った空気、前線の影響で、全国的に雨、一部で大雨、台風第12号の影響で沖縄では一部で大雨(20～23日)

20日は、上空の寒気や暖かく湿った空気の影響で、西日本から東海地方を中心に雨となり、雷となったところがあったほか、九州南部や四国地方では大雨となったところがあった。関東地方から北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。21日は、上空の寒気や、朝鮮半島付近を進む低気圧に吹き込む暖かく湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、雷となったところがあったほか、四国地方では大雨となったところがあった。沖縄地方と北海道は高気圧に覆われおおむね晴れた。22日は、沿海州付近の低気圧からのびる前線の影響で九州から北海道南部にかけて雨や雷となり、四国地方では大雨となったところがあった。また、沖縄付近の台風第12号の影響で、沖縄地方では大雨となったところがあった。23日は、前線や暖かく湿った空気の影響で、全国的に雨となり雷となったところがあったほか、北陸地方では大雨となったところがあった。

台風第12号から変わった低気圧や前線、湿った空気の影響で、西日本の日本海側や東日本、北日本で雨、九州北部地方や関東地方では一部で大雨、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側は次第に高気圧に覆われおおむね晴れ(24～28日)

24日から25日は、台風第12号から変わった低気圧が日本海を北東へ進んだ影響で、西日本の日本海側や東日本、北日本で雨となり、九州や関東地方で雷となったところがあったほか、九州北部地方や東北地方では大雨となったところがあった。26日は、低気圧や前線の影響で西日本から東日本にかけての日本海側や北日本では雨となったところがあったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れた。27日は、前線や湿った空気の影響で九州北部地方や中国地方、北日本では雨となったところがあったが、それ以外の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。28日は、前線が日本海から東北に停滞し、西日本から東日本の日本海側と東北地方では雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、その後前線や湿った空気の影響により西日本から東日本にかけての日本海側や北日本、関東地方で雨(29～31日)

29日は、高気圧に覆われて全国的におおむね晴れたが、低気圧の影響で関東地方では雨となったところがあった。30日から31日は、前線や湿った空気の影響で西日本から東日本にかけての日本海側や北日本、関東地方では雨となったところがあったほか、北陸地方、関東地方、北海道では雷となったところがあった。西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れた。

9月

前線が西日本から東日本付近に停滞し、次第に南下、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、一部の地域で大雨、その後、湿った空気や上空寒気の影響により、東日本を中心に雨(1～7日)

1日から3日は、西日本から東日本付近に前線が停滞し、前線上を低気圧が東へ進んだ。これらの影響で西日本から東日本を中心に雨や雷となり、九州北部地方と東海地方では大雨となったところがあった。北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。4日は、西日本から東日本の太平洋側沿岸に前線が停滞し、前線上の低気圧が東へ進んだ。これらの影響や上空の寒気の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、東海地方、甲信地方では大雨、沖縄・奄美から東日本では雷となったところがあった。5日は、前線が四国の南から日本の東に停滞した影響で東日本を中心に雨となり、関東甲信地方では雷となったところがあった。6日は、湿った空気や上空の寒気の影響で、東日本から東北南部を中心に雨となり、雷となったところがあった。北海道は高気圧

に覆われおおむね晴れた。7日は、東日本や北日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、湿った空気や朝鮮半島付近の低気圧の影響により、沖縄・奄美、九州北部地方や西日本の太平洋側では雨となったところがあったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。

低気圧が本州付近を通過し、ほぼ全国的に雨、四国地方や関東地方では一部で大雨、その後、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、前線や台風第14号の影響などにより広い範囲で雨(8～11日)

8日は、日本海を北東に進む前線を伴った低気圧の影響で、奄美地方から東北地方にかけて雨となり、四国地方では大雨、九州では雷となったところがあった。9日は低気圧が伊豆諸島付近と北日本付近をそれぞれ進み、四国地方から北海道では雨となったほか、関東地方では大雨、東海地方では雷となったところがあった。また、沖縄・奄美や九州は高気圧に覆われおおむね晴れた。10日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、湿った空気や気圧の谷の影響により沖縄・奄美や西日本では雨となったところがあったほか沖縄・奄美では雷となったところがあった。11日は、前線や湿った空気の影響により広い範囲で雨となり、北海道では雷となったところがあった。また、台風第14号の影響により沖縄・奄美では雨となり、雷や強風となったところがあった。

台風第14号や前線、低気圧の影響で全国的に雨、沖縄地方や九州南部では一部で大雨、沖縄地方では一部で暴風(12～15日)

12日は、台風第14号が沖縄付近を北上し、前線が、九州から伊豆諸島付近に停滞した。これらの影響で沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、沖縄地方では大雨や暴風となったところがあった。また、前線を伴った低気圧の影響で、北日本では雨や雷となったところがあった。13日は、台風第14号が東シナ海を北上し、前線が、九州から伊豆諸島付近に停滞した。これらの影響で、沖縄・奄美や九州を中心に雨となり、九州南部では大雨となったところがあった。東日本は高気圧に覆われ晴れたが、北日本は低気圧の影響で北海道を中心に雨となり、強風となったところがあった。14日から15日は、台風第14号が東シナ海でほぼ停滞し、前線が九州から日本の東にのびた。これらの影響で、沖縄・奄美や西日本、および関東地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となった。九州南部や東北地方では大雨、九州南部や沖縄・奄美では雷となったところがあった。

台風第14号が西日本を進み、台風から変わった温帯低気圧が伊豆諸島付近へ進み、全国的に雨、一部の地域で大雨(16～18日)

16日は、前線や台風第14号および湿った空気の影響で西日本から東北地方の太平洋側では雨となったところがあったほか、九州南部では大雨となったところがあった。北海道は高気圧に覆われおおむね晴れた。17日から18日は、台風第14号が西日本を通過し、温帯低気圧になったあと伊豆諸島付近へ進んだほか、別の低気圧が東北地方を東へ進んだ。これらの影響により、全国的に雨となり、大雨となったところがあった。九州では雷や強風となったところがあった。

高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、その後前線を伴った低気圧が日本海を進み全国的に雨、再び高気圧に覆われるが上空の寒気や湿った空気などの影響で一部の地域で雨、近畿地方や東海地方では一部で大雨(19～26日)

19日から21日は、高気圧に覆われ全国的におおむね晴れたが、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本では雨となったところがあった。また、沖縄地方では雷となったところがあった。22日は、前線を伴った低気圧が日本海北部を東北東へ進んだ影響により、全国的に雨となり、雷となったところがあった。23日は、日本海と千島近海の低気圧の影響により、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨となり、雷となったところがあった。それ以外の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。24日は高気圧に覆われ沖縄・奄美から東日本ではおおむね晴れたが、寒気の影響で北日本では雨や雷となったところがあった。25日は、高気圧に覆われ晴れたところが多かったが、中国地方から東北地方では湿った空気の影響で雨となったところがあった。26日は、湿った空気や上空の寒気の影響で、近畿地方から関東甲信地方を中心に雨となり、近畿地方や東海地方では大雨となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。

湿った空気の影響で、西日本の太平洋側を中心に雨、その後前線を伴った低気圧の影響により北海道を中心に雨、一部で大雨、台風第16号の接近により西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨(27～30日)

27日から28日は、日本の東から千島の東へ移動した高気圧に覆われおおむね晴れたが、高気圧を回る湿った空気の影響で西日本の太平洋側を中心に雨となったところがあった。29日は、沖縄・奄美から東日本では湿

った空気の影響により、北海道では日本海の低気圧の影響により、雨となったところがあった。30日は、北海道付近を通過する前線を伴った低気圧の影響により北海道を中心に雨となり、大雨となったところがあったほか、日本の南を北上する台風第16号の接近により西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となった。

10月

台風第16号の影響により近畿地方から北日本にかけて雨、一部の地域で大雨、暴風、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ(1～3日)

1日は、台風第16号の影響で近畿地方から北海道にかけて雨となり、東海地方、関東地方、伊豆諸島では大雨となったところがあったほか、関東地方と伊豆諸島では暴風となったところがあった。2日は、台風第16号や台風から変わった温帯低気圧の影響で東日本から北日本で雨となったところがあった。沖縄・奄美から東日本は高気圧に覆われ晴れたが、上空の寒気の影響で東日本では雨や雷となったところがあった。3日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたが、夜は沿海州付近の低気圧からのびる前線の影響により北海道で雨となったところがあった。

低気圧や前線の影響で北日本を中心に雨、北海道では大雨、西日本から東日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側の一部で雨(4～9日)

4日は、千島近海の低気圧や前線の影響で北海道では雨となり、大雨や雷、強風となったところがあった。沖縄・奄美から東北地方は高気圧に覆われ晴れた。5日は、東北地方に前線が停滞し、北日本では雨となった。沖縄・奄美から東日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨となったところがあった。6日から7日は、前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や東日本、北日本では雨となったところがあった。また沖縄地方では雷となったところがあった。西日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。8日は、前線の影響で、北日本で雨となり、湿った空気の影響で西日本から東日本にかけての太平洋側でも雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。9日は、気圧の谷の影響で、北陸地方や東北地方を中心に雨となったところがあったほか、湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

本州を南下し停滞した前線と台風第18号の影響で全国的に雨、北海道では一部で暴風、九州では一部で大雨、その後、高気圧に覆われ全国的に晴れ(10～15日)

10日は、湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあったほか、北海道は前線の接近により雨や暴風となったところがあった。その他の地域は日本の東の高気圧に覆われおおむね晴れた。11日から12日は、本州を南下する前線と、フィリピン付近を西へ進む台風第18号の影響で、全国的に雨となり九州では大雨、北海道では暴風となったところがあった。13日は、西日本から東日本にかけての太平洋側に停滞する前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、九州と東海地方では雷となったところがあった。北海道は高気圧に覆われおおむね晴れた。14日は、日本海の高気圧に覆われ全国的に晴れたが、夜は気圧の谷の影響で、北海道では雨となったところがあった。15日は、寒冷前線の通過により北日本では雨となったところがあったが、それ以外の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線を伴った低気圧や冬型の気圧配置(以下、冬型)の影響で全国的に雨、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ、その後低気圧が北日本と伊豆諸島付近を進み、西日本から北日本にかけて雨、北陸地方では一部で暴風(16～20日)

16日は、日本海から東北北部へ進んだ低気圧や、前線の影響により中国地方、近畿地方、北陸地方、北日本を中心に雨となった。沖縄・奄美や九州南部は高気圧に覆われおおむね晴れた。17日は、日本の南から日本の東にのびる前線と冬型の影響で全国的に雨となり、北日本では雪となったところがあった。18日は、高気圧に覆われ全国的に晴れたところが多かったが、寒気の影響で日本海側では雨となったところがあった。19日は、日本海の低気圧や伊豆諸島付近の低気圧の影響で日本海側や近畿地方から関東地方にかけての太平洋側を中心に雨となり、伊豆諸島では強風、中国地方と北陸地方では雷となったところがあった。20日は、北日本付近の低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側と北日本を中心に雨となり、北陸地方では暴風や雷、北日本では強風や雷となったところがあった。その他の地域はおおむね晴れた。

上空の寒気や冬型の影響により日本海側を中心に雨、日本の南の低気圧の影響により関東地方で雨、その後

高気圧に覆われ、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心におおむね晴れ(21～24日)

21日は、寒気の影響により西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で雨となったほか、沖縄付近の低気圧の影響で、南西諸島を中心に雨となった。22日は、上空の寒気や気圧の谷の影響で、西日本では日本海側を中心に雨となり、雷となったところがあったほか、北日本でも雨となったところがあった。また、日本の南の低気圧の影響により、関東地方では雨となった。23日は、冬型の影響により、日本海側を中心に雨となったところがあったほか、東北地方では雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。24日は、高気圧に覆われ西日本から北日本にかけて晴れたところが多かったが、沖縄・奄美は湿った空気により雨となったところがあった。

四国の南から日本の東へ進んだ低気圧の影響でほぼ全国的に雨、一部の地域で大雨、その後高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、低気圧等の影響で北日本を中心に雨、台風第20号の影響により小笠原諸島で大雨(25～28日)

25日から26日は、低気圧が四国の南から日本の東へと発達しながら進み、ほぼ全国的に雨となり、近畿地方と東海地方では大雨となったところがあったほか伊豆諸島では強風となったところがあった。27日から28日は、高気圧に覆われ西日本はおおむね晴れたが、気圧の谷や日本海からオホーツク海へ進んだ低気圧の影響で、関東地方や北日本では雨となったところがあったほか、北日本では雷となったところがあった。また、台風第20号の影響で小笠原諸島では大雨となったところがあった。

高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ、その後気圧の谷や湿った空気の影響により九州を中心に雨、一部で大雨(29～31日)

29日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、東日本から北日本にかけての日本海側では寒気の影響で雨となったところがあったほか、北海道では強風や雷となったところがあった。30日は、高気圧に覆われ東日本から北日本を中心に晴れたが、気圧の谷の影響により西日本では九州を中心に雨となり、九州では大雨や雷となったところがあった。31日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となった。

11月

低気圧や上空の寒気の影響で日本海側を中心に雨、北日本では一部で大雨、西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れ(1～5日)

1日から2日は、日本海の低気圧や上空の寒気の影響により東日本や北日本では雨や雷となったところがあったほか、北日本では大雨となったところがあった。3日は、低気圧や上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側と北日本で雨となり、中国地方では雷となったところがあった。沖縄・奄美や西日本から東北地方にかけての太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れた。4日は、上空の寒気の影響で西日本から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に雨となったところがあったほか、四国地方、近畿地方では雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。5日は、気圧の谷や上空の寒気の影響で中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本で雨となったところがあったほか、北海道では雷となったところがあった。また、東シナ海の前線の影響で沖縄・奄美では雨となったところがあった。それ以外の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

高気圧に覆われ西日本から東北地方にかけておおむね晴れ、日本の南を進んだ低気圧や前線等の影響で一部の地域で雨、奄美地方では一部で大雨(6～7日)

6日は、前線上の低気圧が東シナ海を東へ進み、沖縄・奄美や九州では雨となり、奄美地方では大雨となったところがあった。また、東海地方では湿った空気の影響で雨となったところがあった。それ以外の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。7日は、高気圧に覆われ西日本から東北地方にかけておおむね晴れたが、日本の南の低気圧や湿った空気の影響で沖縄・奄美や東海地方、関東甲信地方で雨となったところがあったほか寒冷前線が通過した北海道で雨となったところがあった。

本州付近を進んだ低気圧の影響で全国的に雨、一部の地域で大雨、その後、発達した低気圧や寒気の影響により西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、一部の地域で大雨(8～12日)

8日から9日は、本州付近を前線を伴った低気圧が通過し、全国的に雨となり、西日本から北日本では大雨と

なったところがあったほか、関東地方では大雨、雷、北海道では強風となったところがあった。10日から12日は、北海道付近の発達した低気圧や、寒気の影響により、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、雷となったところがあったほか、北陸地方では大雨、北海道では大雨や強風となったところがあった。

気圧の谷や寒気の影響により日本海側を中心に雨、西日本から東日本の太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れ(13～17日)

13日から14日は、気圧の谷や寒気の影響で西日本から北日本にかけての日本海側で雨となり、東北地方では雷となったところがあった。また、前線の影響により、沖縄・奄美では雨となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。15日から16日は、沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側では高気圧に覆われおおむね晴れたが、気圧の谷や上空の寒気の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側では雨となったところがあったほか、中国地方では雷となったところがあった。17日は、西日本から東日本は高気圧に覆われおおむね晴れたが、北日本では上空の寒気の影響で雨となったところがあった。

前線や低気圧の影響で沖縄・奄美や九州南部、北日本で雨、その後高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ(18～20日)

18日から19日は、沖縄付近の前線の影響で沖縄・奄美や九州南部では雨となり、低気圧や前線の影響で北日本では雨となったほか、強風や雷となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。20日は、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れたが、千島近海の低気圧の影響で北海道では雨や雪、強風となったところがあった。

寒冷前線が本州を通過し全国的に雨、北海道では一部で大雨や暴風、四国でも一部で暴風、その後、冬型の気圧配置(以下、冬型)により日本海側を中心に雨や雪、北陸地方では一部で大雨や暴風、太平洋側はおおむね晴れ(21～27日)

21日は、高気圧の周辺の湿った空気の影響で沖縄・奄美や西日本、関東甲信地方では雨となったところがあった。22日は、沿海州の低気圧からのびる寒冷前線が本州を通過し全国的に雨となり、北海道では大雨や暴風となったところがあったほか、四国地方で暴風、沖縄・奄美で強風となったところがあった。23日から25日は、冬型や寒気の影響により西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北日本では雪となったところがあった。東日本や北日本では強風、北陸地方では大雨や暴風、雷となったところがあった。26日から27日は、冬型の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となったところがあったほか、中国地方、北陸地方、東北地方では雷、北海道では強風となったところがあった。西日本から北日本にかけての太平洋側はおおむね晴れたが、沖縄地方は湿った空気の影響で雨となった。

高気圧に覆われ西日本から東北地方にかけておおむね晴れ、前線や寒気の影響で、日本海側では一部で雨、その後前線を伴った低気圧が日本海を北東へ進み沖縄・奄美から東日本で雨、四国地方では一部で暴風(28～30日)

28日から29日は、高気圧に覆われ西日本から東北地方にかけておおむね晴れたが、寒気や前線の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側では雨となったところがあった。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨となったところがあった。30日は、日本の東の高気圧に覆われ北日本を中心におおむね晴れたが、前線を伴った低気圧が日本海を北東へ進み、沖縄・奄美から東日本では雨となった。四国地方では大雨、沖縄・奄美や九州南部では強風、西日本では雷となったところがあった。

12月

前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を進み、西日本から北日本で雨、一部の地域で暴風、その後冬型の気圧配置(以下、冬型)や低気圧の影響により日本海側を中心に雨や雪、一部の地域で暴風、太平洋側はおおむね晴れ(1～4日)

1日は、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海北部を北東へ進み、西日本から北日本にかけて雨となり、暴風となったところがあったほか、東日本では雷となったところがあった。2日は、低気圧がオホーツク海へ進み冬型となり、日本海側を中心に、雨や雪となり、東北地方では強風、北陸地方や北海道では暴風となったところがあった。太平洋側はおおむね晴れた。3日から4日は、日本海の前線を伴った低気圧や寒気の影響で日本海側を中心に雨や雪となり、九州北部地方、中国地方、北陸地方、東北地方では雷となったところがあったほか、

九州南部では強風となったところがあった。太平洋側は晴れたところが多かった。また、台風第21号が接近した小笠原諸島は雨となった。

移動性高気圧に覆われるが、湿った空気の影響で東日本を中心に雨、その後、気圧の谷や伊豆諸島付近の低気圧の影響で九州北部地方から中国地方にかけての日本海側と、近畿地方から東北地方にかけて雨、一部の地域で暴風や大雨(5～9日)

5日は、冬型が緩み移動性高気圧に覆われ、九州や四国地方、関東甲信地方、北海道太平洋側はおおむね晴れたが、寒気や湿った空気の影響で中国地方から北海道にかけての日本海側では雨や雪となったところがあった。6日は、高気圧が日本の東から日本のはるか東に移動し、湿った空気が流入した影響で、東日本を中心に雨となった。沖縄地方から西日本にかけてと北日本の太平洋側はおおむね晴れた。7日から8日は、気圧の谷や伊豆諸島付近から関東の東へ進んだ低気圧の影響により、九州北部地方から中国地方にかけての日本海側と、近畿地方から東北地方にかけて雨となった。また、関東地方では大雨や暴風、北陸地方では雷となったところがあった。9日は、はじめ日本の東の低気圧の影響により東日本では雨や暴風となったところがあったが、高気圧に覆われほぼ全国的に晴れた。

気圧の谷や湿った空気の影響で一部で雨や雪、その後、低気圧が発達しながら北日本付近を進み、日本海側を中心に雨や雪、一部の地域で暴風、その後、再び高気圧に覆われるが、低気圧や寒気等の影響で一部の地域で雨や雪(10～15日)

10日は、気圧の谷の影響により、全国的に曇りで、西日本では雨となったところがあった。11日は、上空の気圧の谷と湿った空気の影響で北陸地方や北日本日本海側で雨や雪となったところがあったが、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われ晴れた。12日から13日は、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海へ進んだ影響やその後の一時的な冬型の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となったところがあった。北海道では暴風、関東地方と東北地方では強風となったところがあった。14日は高気圧に覆われ沖縄・奄美や西日本はおおむね晴れたが、伊豆諸島付近の低気圧の影響で関東地方では雨となったところがあったほか、寒気の影響で北日本日本海側では雨や雪となったところがあった。また、北海道では強風となったところがあった。15日は、西日本付近の高気圧に覆われ沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側は晴れたが、気圧の谷や湿った空気の影響で北陸地方や北日本日本海側では雨や雪となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。

低気圧が発達しながら日本の東へ進み、西日本から北日本にかけて雨、一部の地域で大雪、暴風、その後、冬型の影響により日本海側を中心に雪や雨、一部の地域で暴風、その後、太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れ(16～20日)

16日から17日は、日本海の低気圧と、前線を伴った低気圧が発達しながら本州の南岸を東へ進んだ影響により、西日本から北日本にかけて雨や雪となり、雷となったところがあったほか、北海道で大雪、沖縄・奄美から東日本にかけて強風、九州南部、四国地方、北陸地方、伊豆諸島では暴風となったところがあった。18日から19日は、冬型の影響により日本海側を中心に雪や雨となり、北海道で強風、北陸地方で暴風や雷となったところがあった。東日本太平洋側はおおむね晴れた。20日は、湿った空気や寒気の影響で北陸地方や北日本の日本海側を中心に雨や雪となった。沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧が北海道を通過し冬型となり、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪、太平洋側はおおむね晴れ、沖縄付近の低気圧の影響で沖縄・奄美で雨(21～23日)

21日から22日は、前線を伴った低気圧が北海道を通過し、冬型となった影響で、中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となったほか、北陸地方と東北地方では雷、北海道では強風となったところがあった。また、沖縄付近の低気圧や湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。23日は、冬型により北日本日本海側を中心に雪となったほか、低気圧の影響で沖縄・奄美では雨となった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や寒気の影響で広い範囲で雨、日本海側で雪、その後強い冬型が継続し日本海側で雪、一部の地域で大雪や暴風、太平洋側はおおむね晴れ(24～28日)

24日から25日は、低気圧の影響で沖縄・奄美と西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、寒気の影響

響で、日本海側を中心に雪となった。また、九州南部や北海道では強風となったところがあった。26日から27日は、強い冬型により、日本海側を中心に雪となり、近畿地方、東北地方では大雪、北陸地方では暴風、北海道で強風、中国地方と北陸地方では雷となったところがあった。その他の地域はおおむね晴れた。28日は、高気圧が次第に西から張り出し冬型が緩んだが、寒気の影響により、中国地方から北海道にかけての日本海側では雪や雨となったほか、北陸地方では暴風となったところがあった。太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線、冬型の影響により日本海側を中心に雪や雨、その後強い冬型により中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雪、一部の地域で暴風(29～31日)

29日は、北海道付近を通過した低気圧の影響や南西諸島付近から西日本の南岸を進んだ前線の影響により西日本や北陸地方、北日本では雪や雨となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。東日本から北日本の太平洋側はおおむね晴れた。30日から31日は冬型の影響により中国地方から北海道にかけての日本海側を中心に雪となった。中国地方や北陸地方では雷となったところがあった。31日は冬型が強まり、北陸地方では暴風、北海道では強風となったところがあった。